

包装を通じて地域社会への貢献・持続可能なよりよい社会づくりへ

第74期

環境経営レポート

Environmental Report



74期
環境経営レポート

上田城と桜

CONTENTS

- 01 Top Message
- 02 会社概要/事業内容
- 03 企業理念に基づいた活動の推進
- 04 環境マネジメントシステム
- 05 SDGs(Vision2030)
- 06 環境経営～サステナビリティ経営へのあゆみ
- 07 マテリアルバランス
 - 2023～2025年 環境経営目標
- 08 ・環境負荷削減テーマ
- 09 ・本来業務/SDGsにかかわるテーマ
- 10 環境保全と本来業務とのかかわり
- 11 2023年活動実績と評価（集計実績）
- 12 2023年活動実績と評価（個別実績）
- 13 持続可能な取り組み
- 14 外部評価
- 15 環境コミュニケーション
- 16 環境関連法規の遵守状況 緊急時想定
- 17 代表者による全体評価と見直し

次世代に引き継ぎたい信州上田の風景

菅平高原

千曲川

塩田平田園

稲倉棚田

環境経営レポートの作成にあたって

コンパクトシステムは一般ダンボールを主要販売商品として、その他強化ダンボールや緩衝材を製造販売しております。地域で生産される工業部品・機械、医療機械製品、食品、野菜や果実・花卉などの青果物等を梱包輸送する環境に優しい資材を提供することで地域の発展に寄与してまいりました。

一方、限りある資源、電力をはじめとした各種エネルギーも消費しながら各種包装資材を生産することで、少なからず環境・社会にも影響を及ぼしております。それらの活動が環境へ及ぼす影響度合い、そしてそれらの負荷を削減させるための活動や環境コミュニケーションへの取り組み、そして当社の想う理念などを分かりやすく記載しております。

日頃当社の事業活動にご理解いただいている地域の方々をはじめ、すべてのお取引様、そして何より日々業務に励んでいる全社員に対してのコミュニケーションツールのひとつとして、74期の環境報告書として、また理念をはじめとして当社の進むべき方向性を伝える資料として作成しました。

レンゲツツジ
(美ヶ原高原)

美ヶ原高原

自然豊かな故郷を次世代に引き継ぐため、事業活動を通じて環境保全活動を推進するとともに、環境コミュニケーション活動をより積極的にすすめることで地域社会の進歩発展と持続可能な社会づくりに貢献してまいります

代表取締役社長 鈴木由彦



地域に育てられ74年。地域の発展がなければ当社の発展もない

1950年（昭和25年）、長野県上田市において旧専売公社（現日本たばこ産業㈱）上田工場構内での輸送用木箱納入業者として創業し、それ以来地域の皆さまにご愛顧を賜り、おかげさまで74年を経過することができました。

創業当初はたばこを輸送するための木箱製造業者でしたが、時代の変遷とともにダンボール、そしてモノづくりが盛んであった長野県東北信地域のニーズを満たすために強化ダンボールや高機能緩衝材もラインアップした総合包装業へと進化発展してまいりました。

現在は地域で生産される各種機械・工業製品や食品・雑貨など様々な業種の商品を日本のみならず世界各国へ輸送するための包装資材各種をご提供し、また日本を代表する農業県として地域で収穫される野菜や果実など生産者の皆様が大切に育てた青果物商品を梱包・輸送するダンボール等、地域に深く根を張りこれまで徹底した地場産業として展開してまいりました。

当社は完全な受注産業であることから、地域の進歩発展（モノづくり生産活動、青果物の順調な収穫）がなければ当社の発展も当然ありません。昨年は全国各地で猛暑の新記録が続出し夏の平均気温は観測史上最高となりました。

その要因はいつかあるそうですが、地球温暖化による気温の底上げが大きく影響していると報道されています。その影響が当社の事業活動にも悪影響を及ぼし、長野県の名産品のひとつである秋のリンゴの収穫量が過去最低といわれるほど低迷いたしました。記録的な猛暑で日焼けや胴割れが発生し当社のダンボール受注も大きく低迷してしまいました。

異常気象により当社の受注環境が大きく悪化。「自分ごと」として捉え 単独の取り組みだけでなく より大きな成果をだすために環境コミュニケーション活動を強化

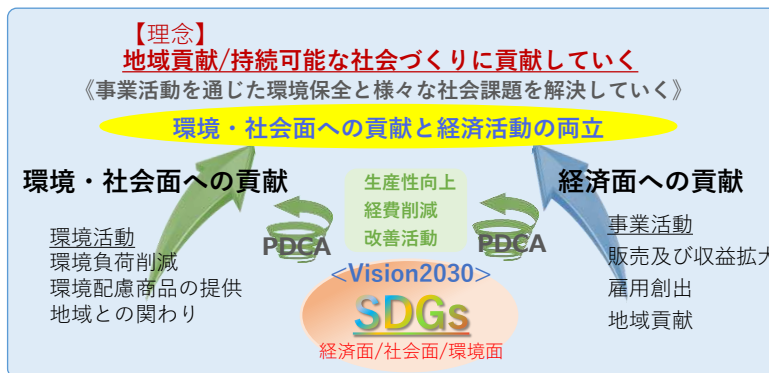
毎年発生する異常気象が原因で、これまでも当社の春から秋にかけてのメイン生産品目である青果物用ダンボール受注状況にも少なからず影響を及ぼしていましたが、昨年の猛暑の影響は近年にないほど販売状況に大きく影を落としました。この状況に直面し、眼前のリスクを「自分ごと」として捉え、社員と共に何とかこの負のスパイラルを止めたい・止めなければならない、という想いで微力ではありますが環境貢献活動に全社で取り組んでおります。しかし残念ながら当社だけではこの状況を変えることはできません。そこでここ近年は、これまでの環境活動を通して知り合った方々（地域の環境団体・地域団体・学校・行政機関など）との環境コミュニケーション活動を通じて、1社では限界がある取り組みを、同じ理念や想いをを持った仲間との協業でより大きな成果を出すような取り組みを進めています。レポート内でも触れていますが、“環境にも人にも優しい”共同開発商品を大学と連携し上市（のちに上田市のふるさと納税返礼品としても登録）し、環境配慮とともに地域活性化にも貢献することができたことは大きな成果となり今後の大きなヒントにもなる出来事でした。また当社開発商品がプラから紙への転換をしCo2排出量削減に大きく貢献したことが評価され「2023日本パッケージングコンテスト」で、環境活動を本格的に始めてから7回目の受賞をするなど本来業務の商品開発にも取り組み成果が出ております。

SDGsへの取り組みを推進するうえで設定した「Vision2030」においても、SDGsの根底の基盤は「環境」であるとの認識からエコアクション21の活動とリンクさせ、地域社会・環境の持続可能性に貢献していくとともに、当社も持続可能できる企業となれるようエコアクション21の環境目標にSDGs達成目標も組み込みながら取り組み強化し、企業価値の向上に努めるとともに、この活動を自社の強みとしていくことを目指しております。

環境保全活動と持続可能な社会づくりに全力で取り組む

本レポートは、第74期（2023年度）までの当社の環境保全活動の取り組み内容と実績状況、当社の理念やこれまで取り組んできた様々な活動をできるだけ分かりやすく記載しました。地域の方々、お取引様、従業員をはじめ当社の関係するすべての方々に目を通していただき、忌憚ないご意見、ご感想、ご要望等いただきながら今後の活動に活かしてまいりたいと存じます。

エコアクション21を2008年に認証取得してから16年の歳月が経過しようとしている中で、1社のみの取り組みでは限界を感じております。そこで現在は、同じ理念や想いをもった仲間との連携を通して（環境コミュニケーション）、お互いの強みを掛け合わせた取り組みやお互いの考えや意見交換を通じてさらなる環境負荷削減成果が発揮できるような活動になることを目指しております。それらの取り組み内容もレポート内に記載しております。



当社理念でもある「地域貢献」「持続可能な社会づくり」は、事業活動を通じて環境・社会・経済面での貢献でありSDGsの取り組みとつながるものであります。当社Vision2030の達成にも向けてこれらを一体の活動として、その達成に向けて今後も取り組んでまいります。自然豊かな私達の住む長野県の地域・社会を守り豊かな自然環境を次世代に引き継いでいけるよう、また事業活動を通じて

地域と社会に貢献し、いつまでも地域に必要とされる総合包装企業としていられるよう、環境保護活動と持続可能な社会づくりに貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年6月

コムパックシステム株式会社について

会社概要 (2024年3月31日時点)

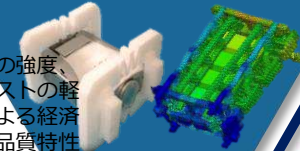
会社名	コムパックシステム株式会社		
本社工場	〒386-0041 長野県上田市秋和940		
塩田工場	〒386-1211 長野県上田市下之郷263-1		
創業	1950年（昭和25年）12月11日		
代表者	代表取締役社長 鈴木由彦		
URL	https://compack.co.jp/		
環境活動期間	2023年4月1日～2024年3月31日		
対象範囲	本社工場および塩田工場		
環境担当者	環境管理責任者	代表取締役社長	鈴木由彦
	環境担当 担当連絡先	取締役営業部長	北沢寿男
	事務局担当者	総務経理課係長	土屋康太
床面積	3,665㎡		
従業員数	38名		
社名の由来	1950年日本専売公社上田工場のたばこ輸送用木箱納入業者として創業（社名：上田企業株式会社）。その後木箱からダンボールへの転換に伴い現本社工場地にダンボール工場を建設。1985年に地元包装資材企業と合併。ダンボールのみならず緩衝材・強化ダンボール・各種資材までも扱う総合包装企業として地域に貢献すべく社名を現在のコムパックシステム株式会社に改称する。 ・COM=コンビネーション（組み合わせを意味する） ・PACK=パッケージング（包装を意味する） 様々な包装材を“適材適所”に組み合わせ、最適な包装形態をお客様にご提供することを目指しています。単なる資材加工企業ではなく最適最良のご提案をしていくパッケージングコンサルティングサービス企業の一面を併せ持っています。それらのハード面とソフト面の要素を組み合わせお客様の発展に貢献していく企業組織（システム）です。		

事業内容



様々な分野のお客様の大切な商品を“やさしく包みこむ”、環境とコスト面に優れた包装資材「リサイクルの優等生」

高機能発泡緩衝材 設計シミュレーション サンテックフォーム



衝撃吸収性による抜群の強度、軽量によるフレートコストの軽減、積載効率アップによる経済性など数多くの優れた品質特性が物流全体の合理化を図ります

ダンボール



当社主力製品

1社1社のお客様ニーズに合わせた最適包装

強化ダンボール HiPLE-ACE®



優れた特性から精密機器の緩衝材をはじめ、電子部品や自動車部品の通函内装材など、様々な分野・用途で活用されています。シミュレーション技術での設計も可能です。

各種包装資材



“環境”と“サステナビリティ”に応えるため、輸送包装に必要な様々な商材をラインナップ。お客様の多様なニーズにお応えします。

新用途商品開発

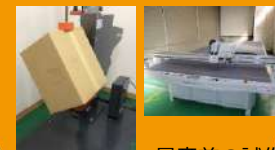


既成概念にとらわれず資材特性を最大限活用した商品開発に取り組んでいます。環境コミュニケーション活動での他者との連携により地域・社会貢献につながる新たな取り組みを進めています。

総合包装企業としてのコムパックシステム

創業当時はたばこ輸送用木箱製造業者であった当社は、その後ダンボール製造業へと転換しダンボール工場を地域で先駆けて建設。様々なものづくりが盛んであった地域特性から、緩衝材設計から製造までを行う企業と合併し、現在は輸送包装で必要とされる様々な包装資材を取り扱う総合包装企業として地域に根差した活動を行っております。

包装設計 評価試験 試作品製作



量産前の試作はもちろん、3軸加速度センサーによる各所の衝撃値の測定や衝撃波形データに基づいた許容衝撃値の確認、試験後の製品破損や変形などを確認し最適包装を追求します。

コムパックシステム株式会社 企業理念に基づいた活動の推進

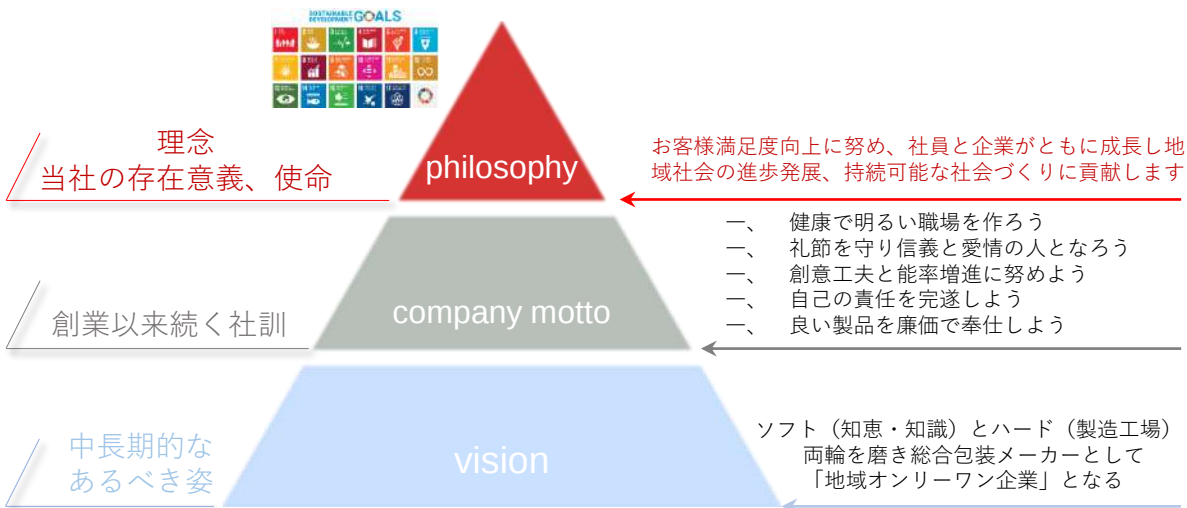
当社は経営理念として「お客様満足度向上に努め、社員と企業がともに成長し地域社会の進歩発展、持続可能な社会づくりに貢献します」と謳っております。

74年にわたり地域に育てていただいているという認識のもとに、引き続きお客様に喜んでいただける総合包装企業であり続けられるためには、社員一人一人がやりがいを持ち高いモチベーションがあるからこそ企業も成長できると考えております。「企業は人なり」の精神のもと社員一人一人が「今日よりも明日」「明日よりも明後日」少しずつ成長できる職場環境づくり、そして社員満足度を高める取り組みを推進することで、お客様満足度向上にも大きくつながれると考えます。

そして、事業活動を通じて地域社会の発展に貢献できる取り組み（包装分野以外においても）に全力で取り組んでまいります。

2019年より国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みもスタートし、環境面のみならず社会面・経済面への配慮と貢献を念頭に社会の一員としての責任と義務を果たしてまいります。その達成のために「持続可能な社会づくりに貢献」の文言も加え理念の一部改訂もおこない、より理念に沿った活動目標を設定し、かつより具体化した活動に取り組んでおります。あわせて経営理念を具体化し達成させるために、創業以来続く社訓、そして中長期的なあるべき姿を描いたビジョンを設定しあらゆる業務遂行において、社員各自が企業理念に基づいた日々の業務を適切に遂行しながら達成にむけた取り組みを推進しております。

EMSエコアクション21の活動においては、理念で謳っている「持続可能な社会づくり」に向けた具体的な環境活動と位置付け2008年より活動を継続発展させており、これまで様々な環境目標の達成に向けて取り組んでまいりました。企業理念の一つである「持続可能な社会」を将来にわたり引き継いでいくために環境負荷削減活動や持続可能な社会づくり・社会課題の解決に貢献する商品開発などに積極的に今後も取り組んでまいります。



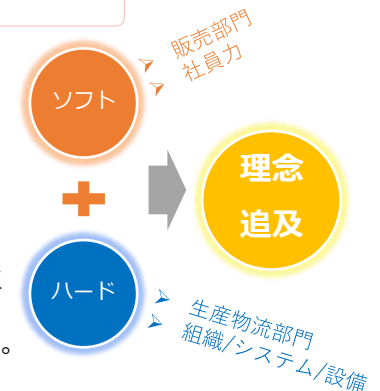
SDGsの基盤は「環境」
環境が全ての根底にあり、その基盤上に社会経済活動がある。
(環境が壊れれば社会不安定になり、経済成長もない)

2008年より本格的にEMSであるエコアクション21を認証取得して以来、環境経営への取り組みを継続的にブラッシュアップ。2019年より国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを経営に組み込みました。環境面のみならず社会面・経済面への配慮と貢献を念頭に社会の一員としての責任と義務を果たしてまいります。将来のリスクとチャンスを見極めることで今後の経営に活かしてまいります。

73期～75期 基本方針
地域、社会に必要なとされ**持続可能な**社会づくりと企業づくりを目指す
皆で協力し考え実行し、企業も人も共に成長できる職場づくり

中期計画においては理念に基づき基本方針を設定しその達成に向けて製販部門が各主要施策に基づき行動しております。ソフト（販売管理部門）とハード（生産物流部門）の両部門を成長させるということと、ソフト【社員力（発想・改善力、人格・人間関係、想い、風土等）】とハード（組織、システム、設備等）両面をバランスよく成長させていくことが重要と位置付けています。

現状をよりよくする改善提案活動、エコアクション21への取り組み、持続可能な地域と企業づくりへの取り組み活動を全社ですすめ、同時に付加価値の拡大にもつなげてまいります。



基本方針と推進体制

環境理念

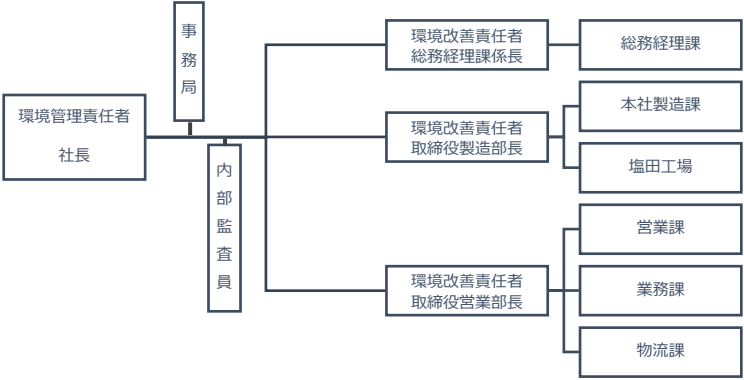
コムパックシステム株式会社は、段ボール製品を核とした各種包装資材の製造工場として豊かな地球環境を次世代へ継承することが人類共通の重要課題であることを認識し、地球環境の保全とその向上を目指した事業活動を行う。

環境方針

- 1. 環境保全活動を推進するため、事業運営に環境マネジメントシステムを構築し、環境の影響を効果的に低減又は削減するために環境目的及び目標を定める。
- 2. 当社の事業活動にともない環境に有意な影響を与える以下の重要項目に関して継続的に実績改善に取り組み、環境汚染の予防の目的達成に努める。
 - ① 天然資源とエネルギーの消費量削減
 - ② 環境負荷物質の管理強化と低負荷物質への代替促進
 - ③ グリーン購入促進と廃棄物の排出量削減
 - ④ 環境に配慮した省資源製品の積極的販売・開発に努める
- 3. 環境活動の推進と向上のため、項目ごとに目標を設定し、そのための活動計画を立案し、実施し、内部環境監査結果などにより評価し、見直しを行う。
- 4. 環境に関する法的要求事項および当社が合意するその他の要求事項を遵守して、いっそうの環境保全を図る。
- 5. 教育訓練及び日常の環境管理活動を通じて、全従業員に本方針を周知するとともに、運営制度に関する責任の所在の明確化を図り、常に最新の環境マネジメントを維持する。
- 6. この環境方針は、社外にも公開する。

2015年4月1日
代表取締役社長 鈴木由彦

環境マネジメントシステム組織図



役割/責任/権限	
代表者	方針を決定し周知する。 資源（ヒト、モノ、カネ）を用意する。 全体の評価、見直し、レポート承認。 環境経営システムを構築し実行、実績を向上させる。 文書承認、レポート編集をする。 ENS全般の舵取り、実行推進する。
環境管理責任者	EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する。取り組み、負荷チェックを行う。自部門の環境目標、活動計画の達成と実績の把握をする。 法規制を遵守する。教育訓練を実施。自部門のメンバーへ周知徹底する。緊急事態への準備、対応の訓練実施。管理者を補佐し解決策を立案する。 外部からの提案・苦情を受けつける。

内部監査の実施

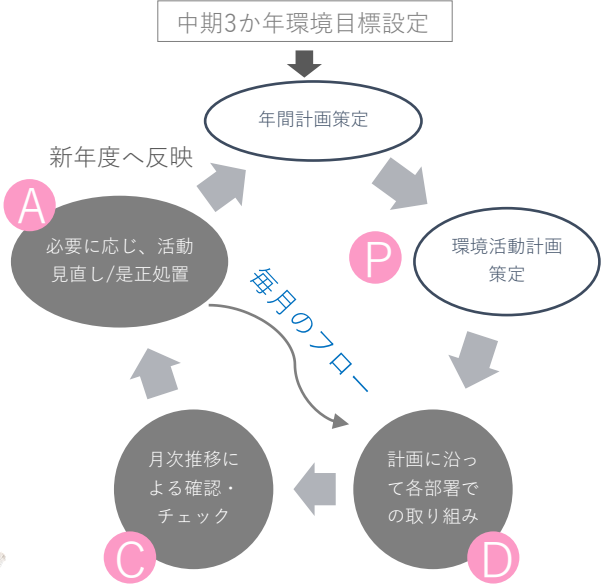
「要求事項、活動内容が各業務内で正しく守られているか」という適合性の確認と「監査の対象が環境マネジメントシステムの目的に準じて役立っているか」という有効性の評価のために1年に1回、内部監査を実施しています。より客観性・公平性を担保するために製造部長が販売・物流・管理部門を、営業部長が製造部門を監査し記録に残しております。

Qごとのチェック

環境活動計画書に沿って活動しているかQ（クオータ）（3か月間隔）ごとに部門ごとその期間での活動内容を活動チェック表に記載し環境管理責任者へ提出しています。定期的にチェックすることで取り組みが弱体化しないように管理しています。

毎月1人1件！改善提案

今年度からは収益を圧迫しているユーティリティーコスト関連項目削減への改善事項、取り組み事項について全社員から毎月提出してもらっています。



エコアクション21の基本であるPDCAを回し続けることで目標達成につなげるよう心がけております。



2030年までの長期ビジョン「Vision2030」を設定し持続可能な社会づくりへの貢献に取り組んでおります
 キックオフした2018年から2023年度までの6年間の進捗状況をご報告いたします

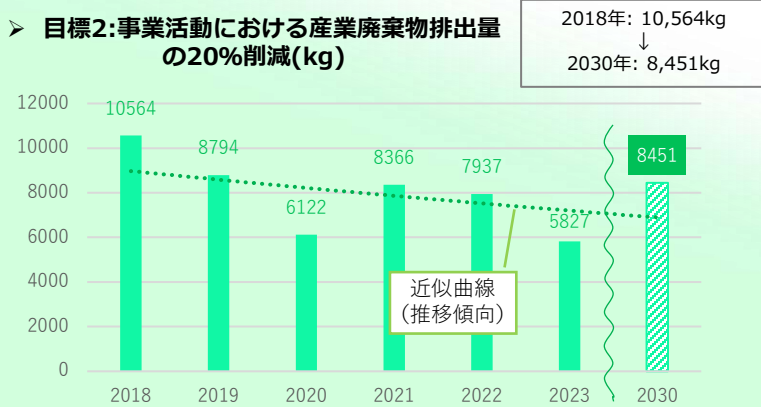
SDGs達成に向けた経営方針策定

弊社の企業理念「お客様満足度向上に努め社員と企業が共に成長し、地域社会の進歩発展と持続可能な社会づくりに貢献する」は、人や環境に配慮し社会が求める製品やサービスを持続し提供することで、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、全社員がそのことを自覚し、各自の役割をはたすことによりSDGsの達成に貢献していきます。

当社は長野県が創設した、企業活動等を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に意欲的に取り組む県内企業等を登録・PRする制度「長野県SDGs推進企業登録制度」に2019年11月に登録し持続可能な社会づくりに全社挙げて本格的に取り組み始めました。あわせて経営理念もSDGsの達成にむけて改訂し「持続可能な社会づくりに貢献」という文言も新たに加え2030年までの目指すべきゴール「Vision2030」として名実ともにキックオフをいたしました。

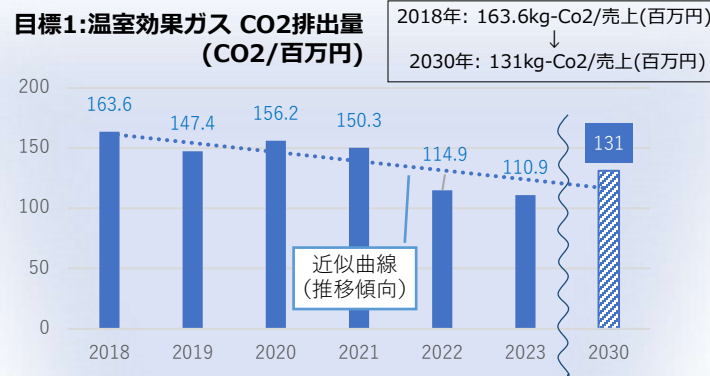
SDGsは「持続可能な開発目標」として2015年9月に国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。「環境」「社会」「経済」3側面それぞれにおいて具体的達成すべき目標設定を行い達成に向けた取り組みをおこなっております。

目標2:事業活動における産業廃棄物排出量の20%削減(kg)



版や型の整理処分で一時的に増減することは避けられないが、減少傾向で推移中。通常の事業活動の中での廃棄物を削減することに今後も注力し目標達成に向けて取り組んでいく。

目標1:温室効果ガス CO2排出量 (CO2/百万円)

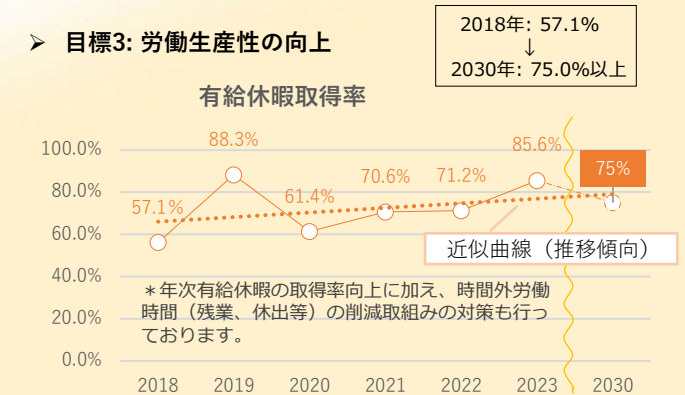


2022年度より電力購入業者を新電力会社へと切り替えたことで排出係数が低くなった影響で計画値以上でここまで推移している。この状況でさらに取り組みを強化し計画的に削減を進める。

目標1:「温室効果ガスCO2排出量」20%削減 (CO2/百万円)



目標3:労働生産性の向上



2019年度はコロナ禍により事業活動が縮小したため取得率が向上。2020年度から取得率が年々向上していることから取り組み成果が出てきている。応援体制や多能工化を進める中で全部門での取得率向上を目指す。

大蔵省(現 財務省)専売局上田たばこ分工場創業に伴い、たばこ包装用木箱納入業者、

「上田企業(株)」として操業開始

荷造包装容器が木箱から段ボールへの転換を先見し、大型段ボール製函工場を建設、たばこ用段ボール箱のほか、一般民需向け段ボール箱の製造開始



環境マネジメントシステム
エコアクション21認証取得



環境貢献開発商品が「2013日本パッケージングコンテスト」
輸送包装部門賞受賞
Asia Star2013 同時受賞
塩田工場に太陽光発電設置



環境貢献開発商品が「2015日本パッケージングコンテスト」
工業包装部門賞受賞
Asia Star2015 同時受賞



エコアクション21による 環境経営



地元包装資材メーカーと合併。
社名をコムパックシステム
株式会社と改称。



本社工場に太陽光発電設置(日中、事務所電力に使用。余剰分は売電)
本社工場、事務所照明をLED化



環境貢献開発商品が「2014日本パッケージングコンテスト」
最上位ジャパンスター受賞
Asia Star2014 同時受賞



塩田工場太陽光発電
パワーアップ



環境貢献開発商品が「2017日本パッケージングコンテスト」
工業包装部門賞受賞

第21回環境コミュニケーション大賞「優良賞」受賞
FSC®森林認証取得



環境負荷低減を目的とした
最新型 廃液処理施設導入



環境貢献開発商品が「2020日本パッケージングコンテスト」
輸送包装部門賞受賞
第22回「信州エコ大賞」企業賞受賞

R2年度「うえた ひと・もの興しの紡ぎ表彰」において特別賞受賞
【ダンボール製ベッド・間仕切り】



「エコアクション21オブザイヤー
2022」銀賞受賞

R4年度「うえた ひと・もの興しの紡ぎ表彰」において名工・匠部門大賞受賞
【ナツロール開発】



エコアクション21にSDGsを組み入れたサステナビリティ経営



ワールドスターコンテスト
2018 受賞



環境貢献開発商品が「2018日本パッケージングコンテスト」
輸送包装部門賞受賞
Asia Star2018 同時受賞



第22回環境コミュニケーション大賞
「優秀賞」受賞



長野県SDGs推進登録
企業登録(第2期)

第23回環境コミュニケーション大賞「優良賞」受賞



ワールドスターコンテスト2021受賞
Asia Star2020 受賞



R3年度「うえた ひと・もの興しの紡ぎ表彰」においてSDGs部門特別賞受賞
【ダンボール製什器開発】



「エコアクション21オブザイヤー2021」金賞(環境大臣賞)受賞

「エコアクション21オブザイヤー2023」優良賞受賞



環境貢献開発商品が「2023日本パッケージングコンテスト」
工業包装部門賞受賞



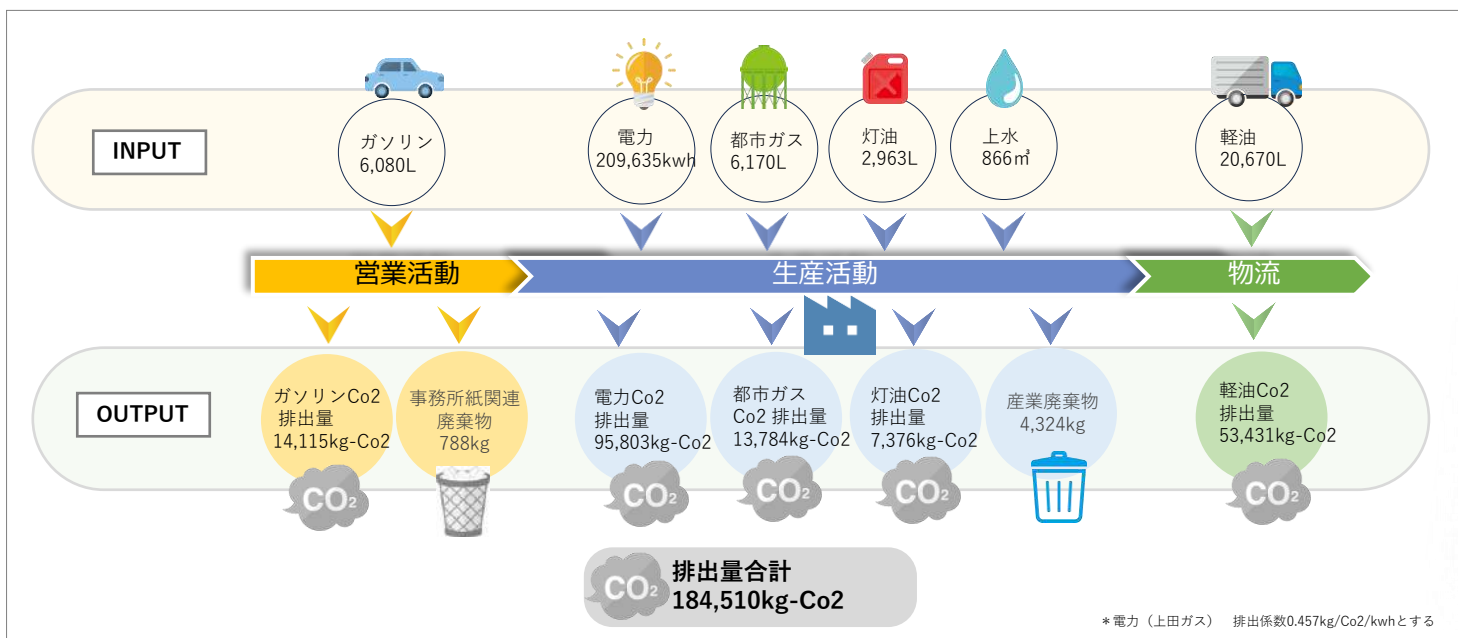
当社のあるべき姿

環境負荷削減に貢献する取り組みと環境配慮商品の開発に取り組んでまいりました

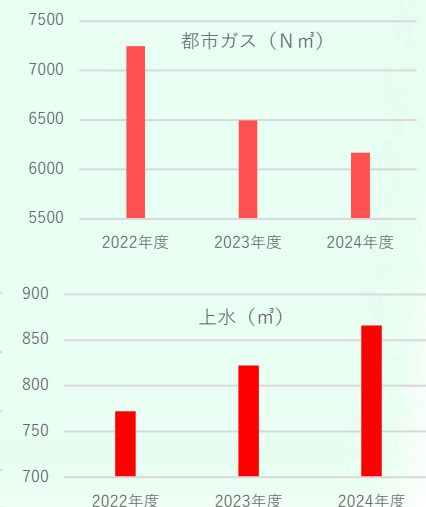
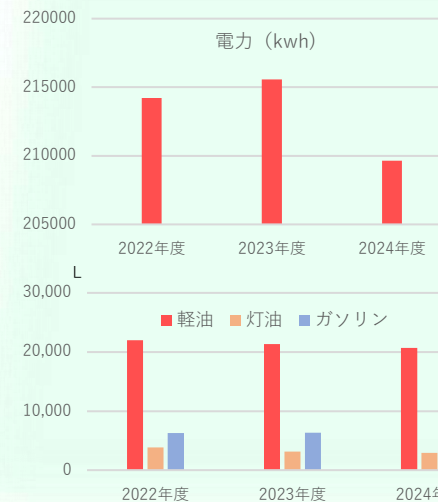
コムパックシステムの環境経営からサステナビリティ経営への取り組みのあゆみ

環境負荷の状況 【マテリアルバランス】

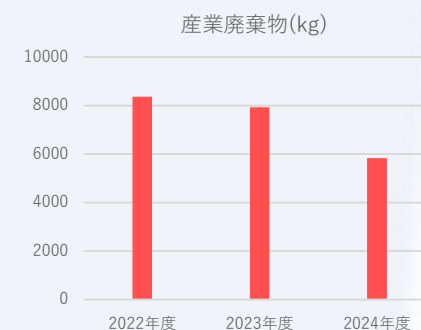
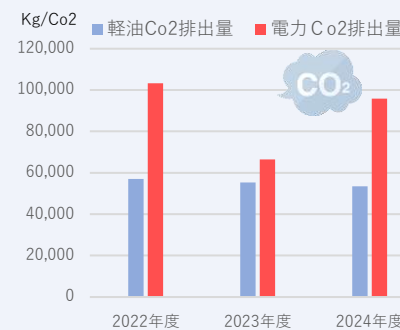
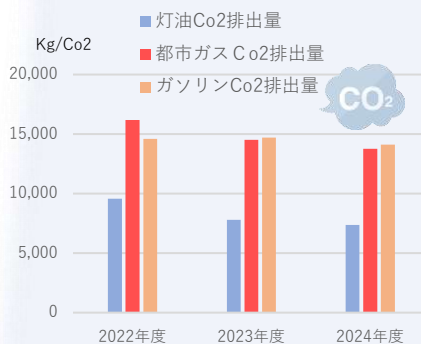
企業の事業活動におけるエネルギー投入量（インプット）と、その活動に伴って発生した環境負荷物質（アウトプット）をあらわしたものです。生産活動における環境負荷の把握を行い、これらの削減に取り組んでおります。



INPUTの推移



OUTPUTの推移



TOPICS

✓ 自然再生エネルギー、LED照明を活用して電力消費量を抑える取り組み
本社工場と塩田工場の両工場には太陽光発電を設置しており、特に本社工場では太陽光により発電した電力を事務所電力で活用しております。これにより事務所電力は自然再生エネルギーで賄っており、併せてLED照明に全面切り替え済みです。電力INPUTを低減させております。

✓ 社有車をすべてハイブリッド車に切り替えガソリン消費量を抑える取り組み
社有車を6年ほど前よりすべてハイブリッド車へ切り替えガソリン消費量を大きく減少させています。10年前と比較してガソリンと軽油の消費量をを合計で25%近く削減しています。

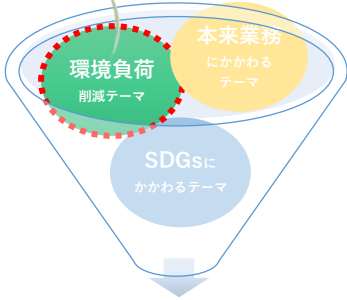
2023年～2025年
環境経営目標 一覧

2023～2025年度の環境目標は、地球環境保全・持続可能な社会づくりに貢献する環境負荷削減目標（二酸化炭素排出削減・産業廃棄物排出量削減・排水量削減）のみならず、本来業務の成果向上へとつながる目標、またSDGsへの貢献にもつながる目標も設定し一元化することで、付加価値の向上や信頼性向上、社員が原きやすい職場づくりなど総合的な企業としての競争力向上・価値向上につなげてまいります。

環境負荷（エネルギー・廃棄物関連）を削減する環境テーマ 【二酸化炭素排出量削減/産業廃棄物排出量/排水量削減】

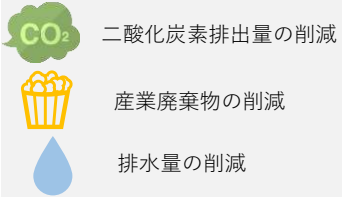
SDGsへの貢献分野	項目			単位	基準年	3年間の目標			
					2022年実績	2023年目標	2024年目標	2025年目標	
7 再生可能エネルギーの活用 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を	二酸化炭素排出量の削減  長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります			kg-CO2/売上（百万円）	114.9	1%削減 113.8	1.5%削減 113.2	2%削減 112.6	
		電力使用量の削減	本社工場	kwh/千㎡	37.2	1%削減 36.8	1.5%削減 36.6	2%削減 36.5	
			塩田工場	Kwh	21,022	1%削減 20,812	1.5%削減 20,707	2%削減 20,602	
		軽油消費量の削減		km/L	4.98	1%燃費UP 5.03	1.5%燃費UP 5.05	2%燃費UP 5.08	
		ガソリン消費量の削減		km/L	17.91	1%燃費UP 18.09	1.5%燃費UP 18.18	2%燃費UP 18.27	
		ガス使用量削減		㎡/千㎡	1.32	1%削減 1.31	1.5%削減 1.30	2%削減 1.29	
		産業廃棄物排出量の削減  長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります			kg	8,385	2%削減 8,217	3%削減 8,133	4%削減 8,050
12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を 6 安全な水とトイレを世界中に		工場	①可燃ごみ	kg	307	2%削減 301	3%削減 298	4%削減 295	
			②廃プラ	kg	595	2%削減 583	3%削減 577	4%削減 571	
			③廃木材（パレット含）	kg	1,580	2%削減 1,548	3%削減 1,533	4%削減 1,517	
			④汚泥	kg	3,490	2%削減 3,420	3%削減 3,385	4%削減 3,350	
			⑤その他	kg	1,847	2%削減 1,810	3%削減 1,792	4%削減 1,773	
		事務所	①雑紙②オフィス古紙③ミックスペーパー（カーボン紙）		kg	566	2%削減 555	3%削減 549	4%削減 543
	排水量の削減			㎡	822	1%削減 814	2%削減 806	3%削減 797	

今年度活動目標



エコアクション21

3年目標(2023～2025年)



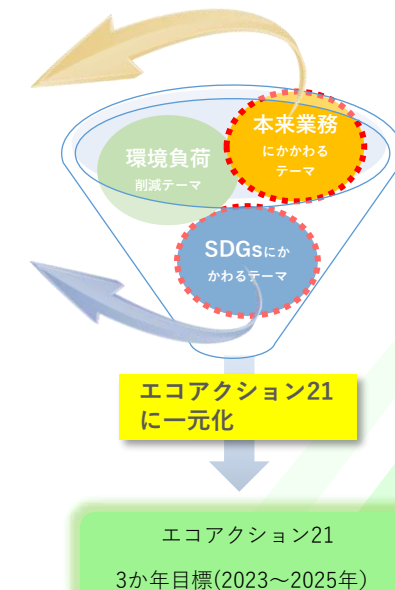
エコアクション21の取り組みを始めてから現在に至るまで継続して取り組んできた環境負荷削減の主要活動目標になります。重要管理数値として今後も削減の取り組みを進めてまいります

本来業務、SDGsとのかかわりを強く考慮した環境経営テーマ

販売・管理・製造・物流の日常業務の中において本来の管理業務やSDGsへの取り組みと関連する目標を設定し、達成に向けた取り組みを進めることで、環境貢献するとともに生産性向上・収益力の向上にもつなげてまいります。

SDGsへの貢献分野	項目		単位	基準年	3年間の目標		
				2022年実績	2023年目標	2024年目標	2025年目標
 	生産性の向上による省資源、省エネルギー	主力生産機アイビスセット時間の短縮	分	2.69	1%削減 2.66	1.5%削減 2.65	2%削減 2.64
		主力生産機アイビス平均速度の向上	枚.分	195.3	1%UP 197.3	1.5%UP 198.2	2%UP 199.2
	時間外労働時間の削減		時間	1,686	5%削減 1,602	6%削減 1,585	7%削減 1,568
	在庫回転率の向上		回	4.23	2%UP 4.31	3%UP 4.36	4%UP 4.4
	減容チップ排出量の削減 (サンデックフォームロス削減)		kg/m ³	16.1	1%削減 15.9	1.5%削減 15.9	2%削減 15.8
   	環境/SDGs に配慮した設計、製造工程等の改善		件	72	営業部全体 毎月6件以上		
	顧客クレーム削減		件		現状把握年度 38	40%削減 23	50%削減 19
	不良率低下による省資源、廃棄物の削減	破損品の削減（件数） 【工場発生分】	件		20	18	16
		破損品の削減（件数） 【事務所発生分】	件	6	5	5	4
		破損品の削減（金額） 【工場発生分】	円	215,840	180,000	160,000	150,000
		破損品の削減（金額） 【事務所発生分】	円	257,092	230,000	200,000	180,000

今年度活動目標



従来、別管理で進めていた本来業務の各種課題、SDGs目標もP DCA管理経営であるエコアクション21に一元化し、より取り組みやすく、より管理しやすくしました。
当社の問題点や課題がタイムリーにつかむことができ継続的な発展につなげています。

コンパクトシステムの環境経営目標がSDGs/環境保全 および 本来業務とのかかわり 一覧

relationship



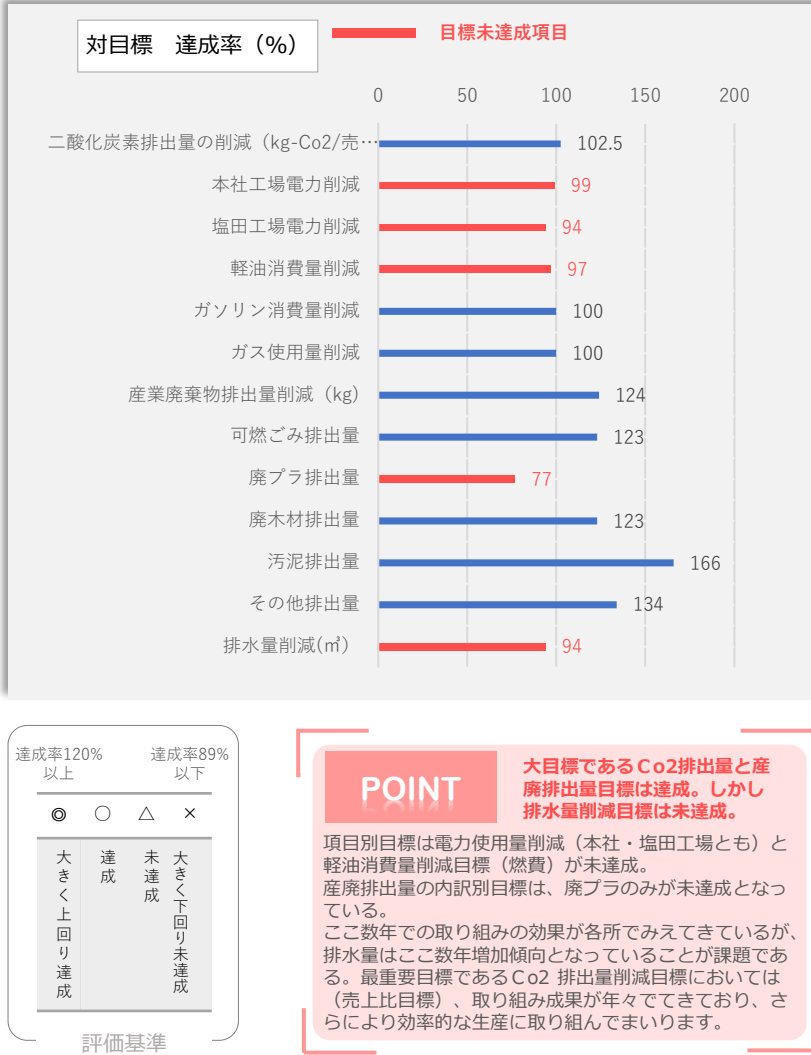
現在、当社は単なる環境負荷を低減させる活動を進めているのみでなく、SDGs達成に向けての貢献度向上、そして活動を通じて自社の付加価値拡大に取り組んでおります。持続可能な企業づくりに取り組むと共に本来業務とのかかわりを強く意識しています。

環境目標(2023～2025)	SDGsとのかかわり	環境保全とのかかわり	本来業務への効果
二酸化炭素排出量の削減	7 持続可能なエネルギー、12 持続可能な消費と生産、13 気候変動	地球温暖化の要因となっている温室効果ガス（二酸化炭素排出）の排出量を抑える取り組み。世界的に最も喫緊の重要なテーマ。当社の中長期目標「Vison2030」のテーマ目標でもある。	高騰する各種エネルギー使用費の削減＝コストダウンにつなげ収益向上へとつなげる。
産業廃棄物排出量の削減	12 持続可能な消費と生産、13 気候変動	環境破壊の要因ともなっている産業廃棄物排出量を低減していくことで焼却時のGHGの低減や埋め立て時の負荷（土壌・水質汚染防止等）を減らしていく取り組み。当社の中長期目標「Vison2030」のテーマ目標でもある。	産業廃棄物処分量を低減＝処分費削減につなげる。廃液処理（汚泥）を削減させることで化学物質使用の削減につなげ企業リスクを低減させる。
排水量の削減	6 安全な水と衛生、12 持続可能な消費と生産	排水量を削減していくことで、環境負荷物質の流出を防止するとともに限りある資源の有効活用を目指す。当社の場合、主にボイラーでの使用場面が多くボイラー使用の最適化を目指していくことで、水、ガス両面に対して削減につなげていく。	ボイラーでの水使用量がメインとなるためボイラー使用の削減に取り組むことはガス使用量の削減へもつながる取り組みのため、大きなコストダウンへ貢献する。
生産性の向上による省資源、省エネルギー	7 持続可能なエネルギー、8 持続可能な産業と雇用	当社主要生産ライン「アイビス」の生産性向上を目指すことで（時間当たり生産量・セット時間の短縮）、時間外労働時間の短縮や時間当たり生産量の向上、ロス削減、ムダ・ムリの撲滅につなげ、環境負荷削減と同時に本業でのコストダウン、効率改善につなげていく。	生産性向上は製造部門の主要テーマであり、マシンのセット時間短縮と平均生産速度向上は付加価値の拡大に直結する取り組みである。そのための取り組みはムダムリの撲滅、改善活動に大きく貢献するものである。
時間外労働時間の削減	8 持続可能な産業と雇用	時間外労働時間削減に取り組むために、生産性向上、助け合い、多能工化への取り組みをすすめ個人スキル及び・チーム力を向上させながら、同時に労働時間の削減につなげることでトータルエネルギーの削減も目指していく。	時間当たりの生産性を向上する取り組みでありワークライフバランスに貢献し社員が働きやすい環境づくりにもつながり社員モチベーション向上に有効。時間外労働時間削減によるエネルギー消費削減、コストダウンにも貢献。
在庫回転率の向上	12 持続可能な消費と生産	また当社のこれまでの経験から長期在庫は最終的に破損、品質劣化による処分になる場合が多く環境面での負荷を増加させるリスクもある。本目標を通じてそれらの改善に貢献し環境負荷を減らしながら経営効率化にも貢献できるように取り組んでいく。	在庫は販売機会を失わうことがないよう必要な場合もあるが、増加しすぎると5Sへの影響、また止まった場合はキャッシュの流れが滞留し経営を圧迫するリスクがあるのでこれを改善していく。管理費削減・処分する際の処分料も削減可能。
減容チップ排出量の削減 (サンテックフォームロス削減)	12 持続可能な消費と生産	きまった寸法の原反から切り出し・抜き・貼り加工などを行っている緩衝材の加工時のロス（端材）を出来るだけ少なくし処分する量を減らすことで環境への負荷を低減させていく。	製造部門だけでなく設計段階での取り組みが必須。製販共に情報交換しながらロスを極力排出しないような設計や再利用・再活用の方法を見い出していく。ロスを減らす取り組みはコストダウン・付加価値向上に大きく貢献。
環境/SDGsに配慮した設計、製造工程等の改善	4 質の高い教育、9 産業と革新の基盤をつくろう、12 持続可能な消費と生産、15 陸の豊かさを守ろう	環境・SDGsへ貢献する設計・生産手法改善は今後生きのこりのための重要なキーワード。環境保全を意識した設計段階からの取り組みは必須である。軽量化・薄物化・低ロス・リターナブルなど様々な観点から環境に配慮した商品設計を進めていくことで環境保全へつなげていく。	本目標に向かい活動を進めることが当社の強み・特徴、大きな他社との差別化につながり当社の存在価値となっていく。当社独自の環境商品を普及させることが地域への貢献となっていく。
顧客クレーム削減	12 持続可能な消費と生産	顧客クレームは訪問・手直し・作り直し作業・廃棄の発生など環境面からも大きなロスを発生させている。そのクレームを管理し未然防止・再発防止につなげていく。	築いてきた信用信頼を棄損することなく小さなクレームについても管理することで再発を防止し企業の信用力を向上させていく。
不良率低下による省資源、廃棄物の削減、 (工場発生分、事務所発生分それぞれで管理)	12 持続可能な消費と生産	自社での破損品発生は、廃棄・再手配・作りなおし・再配達など環境負荷を上げてしまう。非常にもったいないことであり再発防止につなげ環境負荷を下げていく。	工場発生分・事務所発生分と分けて管理していくことで、責任の明確化を行い、自分ごととして捉えてもらい再発の防止を狙っていく。自ら付加価値を減少させることに事になるので破損品発生の原因を追究・再発防止を行うことで付加価値の向上につなげる。

環境負荷（エネルギー・廃棄物関連）を削減する環境テーマ

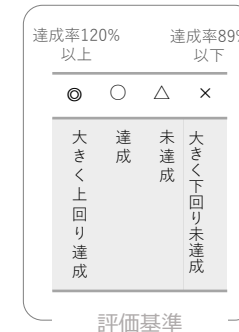
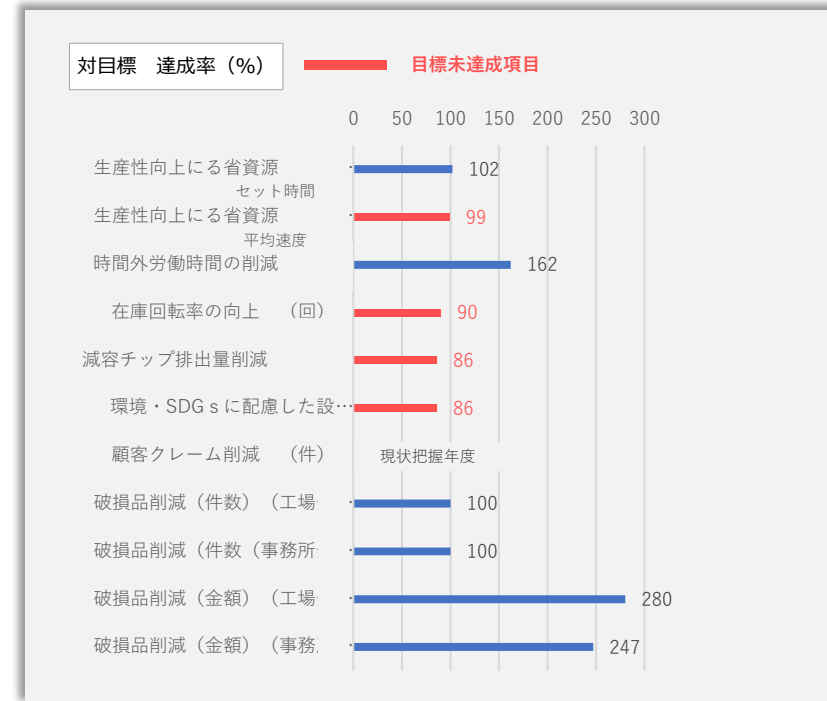
【二酸化炭素排出量削減/産業廃棄物排出量/排水量削減】

SDGs貢献分野	項目			単位	基準年	2023年度			
					2022年実績	2023年目標	2023年実績	2023年評価	
7 再生可能エネルギーの拡大  12 つくる責任、つかう責任  13 気候変動に 対応する 	二酸化炭素排出量の削減 			kg-CO2/売上 (百万円)	114.9	1%削減 113.8	110.9	○	
		電力使用量の削減	本社工場	kwh/千㎡	37.2	1%削減 36.8	37.2	△	
			塩田工場	Kwh	21,022	1%削減 20,812	22,011	△	
		軽油消費量の削減		km/L	4.98	1%燃費UP 5.03	4.87	△	
		ガソリン消費量の削減		km/L	17.91	1%燃費UP 18.09	18.14	○	
		ガス使用量削減		㎡/千㎡	1.32	1%削減 1.31	1.3	○	
	12 つくる責任、つかう責任  13 気候変動に 対応する 	産業廃棄物排出量の削減 			kg	8,385	2%削減 8,217	6,227	◎
		工場	①可燃ごみ	kg	307	2%削減 301	244	◎	
			②廃プラ	kg	595	2%削減 583	760	×	
			③廃木材（パレット含）	kg	1,580	2%削減 1,548	1,260	◎	
④汚泥			kg	3,490	2%削減 3,420	2,060	◎		
⑤その他			kg	1,847	2%削減 1,810	1,348	◎		
事務所		①雑紙②オフィス古紙 ③ミックスペーパー（カーボン紙）	kg	566	2%削減 555	555	○		
12 つくる責任、つかう責任  6 安全な水とトイレを 世界中に 		排水量の削減			㎡	822	1%削減 814	866	△



本来業務、SDGsとのかかわりを強く考慮した環境経営テーマ

SDGs貢献分野	項目		単位	基準年	2023年		
				2022年実績	2023年目標	2023年実績	2023年評価
7 環境・社会に配慮した調達活動 8 気候変動に配慮した調達活動	生産性の向上による省資源、省エネルギー	主力生産機アイビス セット時間の短縮	分	2.69	1%削減 2.66	2.6	○
		主力生産機アイビス 平均速度の向上	枚/分	195.3	1%UP 197.3	195.1	△
8 気候変動に配慮した調達活動	時間外労働時間の削減		時間	1,686	5%削減 1,602	989.25	◎
12 つくばる資源を つぎつぎと	在庫回転率の向上		回	4.23	2%UP 4.31	3.88	△
12 つくばる資源を つぎつぎと	減容チップ排出量の削減 (サンテックフォームロス削減)		kg/m ³	16.1	1%削減 15.9	18.5	×
4 開かれた社会を みにつく 9 気候変動に配慮した調達活動 15 環境・社会に配慮した調達活動 12 つくばる資源を つぎつぎと	環境/SDGs に配慮した設計、製造工程等の改善		件	72	営業部全体 毎月6件以上 72 62 ×		
12 つくばる資源を つぎつぎと	顧客クレーム削減		件	/	現状把握年度	38	/
12 つくばる資源を つぎつぎと	不良率低下による 省資源、廃棄物の削減	破損品の削減（件数） 【工場発生分】	件		20	20	
		破損品の削減（件数） 【事務所発生分】	件		5	5	
		破損品の削減（金額） 【工場発生分】	円		180,000	63,962	
		破損品の削減（金額） 【事務所発生分】	円		230,000	92,996	



POINT

本来業務/SDGs達成にかかわる目標については全社でのさらなる取り組み強化が必要！

環境保全に貢献するとともに、付加価値向上・信用信頼UP・SDGs達成に向けた活動を進めているが4割(未達成4・達成6)の目標が未達成となり、業績に直結する重要な項目ばかりなので来期以降PDCAを確実に回すことで達成率の向上を図ってまいります。顧客クレーム削減においては来期以降、数値目標を設定し削減＝信頼性向上につなげてまいります。

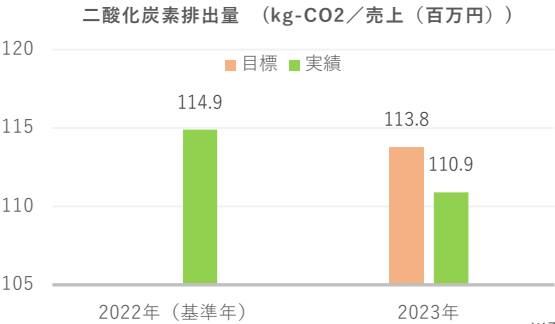
2023年度活動実績と評価 (個別実績)

個別目標に対しての実績報告をいたします。

◎	目標を大きく上回り達成
○	達成
△	未達成
×	目標を大きく下回り未達成



二酸化炭素排出量の削減



2023年度実績評価	達成率
○	113.8%



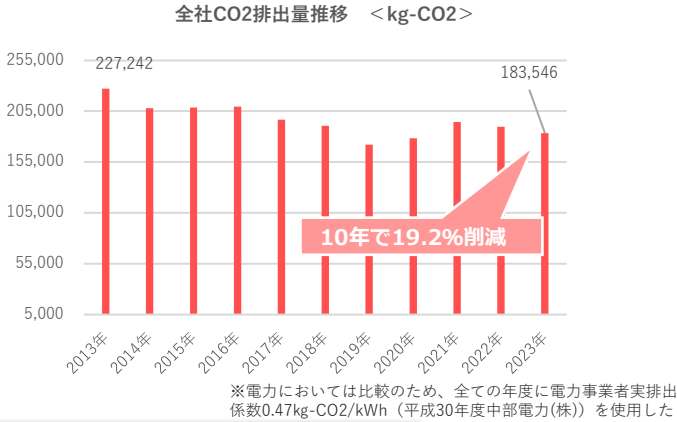
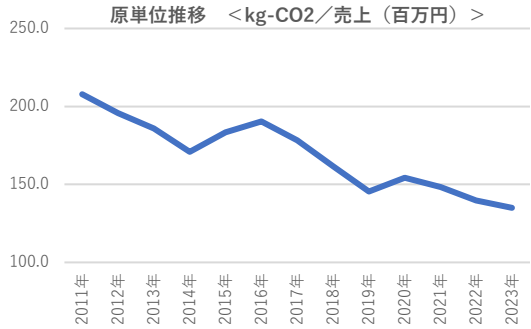
長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります

POINT

計画通りに目標達成はできたものの、電力でのCO2削減が今後求められる

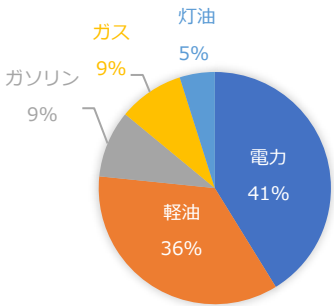
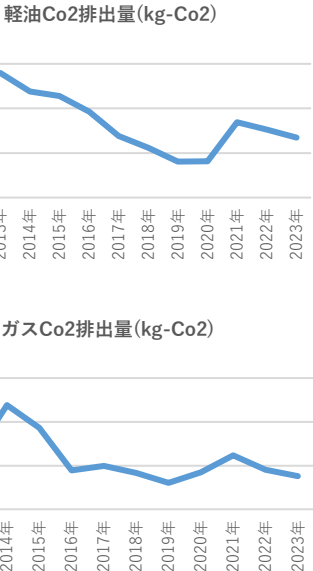
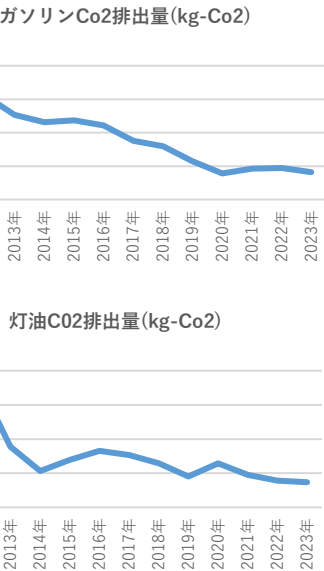
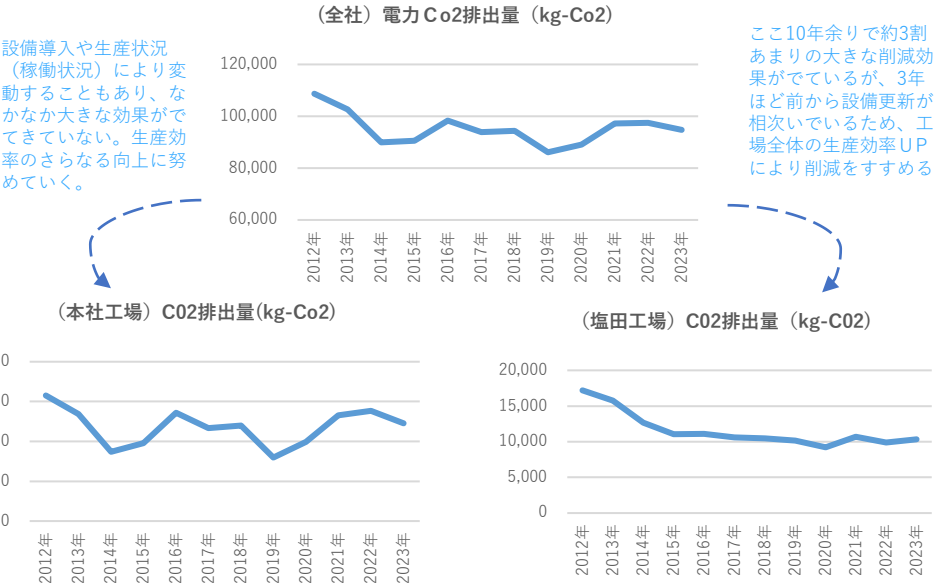
年度による生産状況によりCO2排出量が増減してしまうと公正に評価ができないため、原単位 (kg-CO2/売上) での数値管理を行っているがこれまでより効率的な生産をすすめる各種エネルギー関連の削減取り組みを進めてきた成果が出ていることがこれまでの推移グラフの中ではっきりと表れています。しかし項目別排出量でみると電力 (特に本社工場) のCO2排出量削減が今後求められます。設備導入などによる影響もありますが今後どのように削減していくかが問われています。

※電力においては比較のため、全ての年度に電力事業者実排出係数 0.47kg-CO2/kWh (平成30年度中部電力(株)) を使用しています



CO2排出量削減への取り組み活動が大きなコストダウンへとつながる

2023年度は「電力」と「軽油」の消費によるもので企業全体のCO2排出量の8割弱を占めている。今後より大きなCO2排出量削減をすすめるためにはこの2項目の取り組み強化を進めていかねばならない。しかも今後さらなるエネルギー関連コストの上昇を考慮するとコストダウンへの大きなキーワードとなってくることは間違いない。

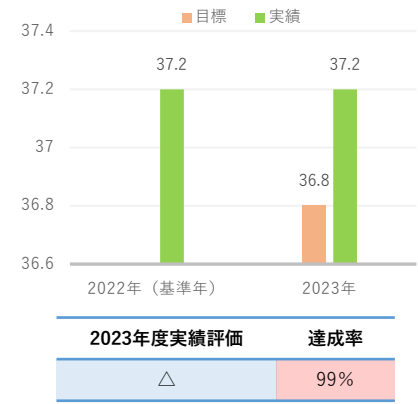


CO2排出量内訳 (2023年度)

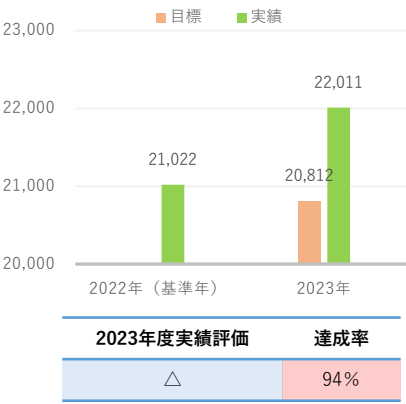
二酸化炭素排出量の削減

エネルギー項目別目標&実績

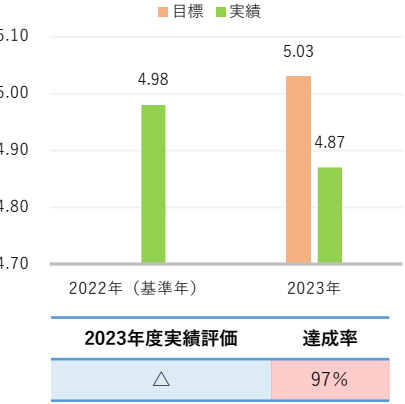
◆本社工場電力
対生産量比（kwh/千㎡）



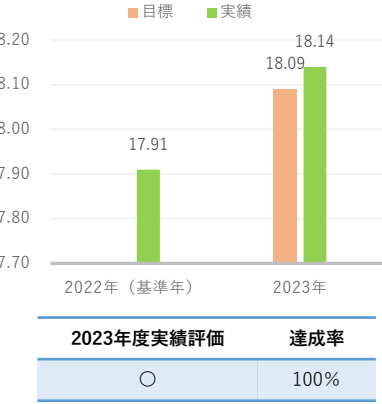
◆塩田工場電力
電力使用量（Kwh）



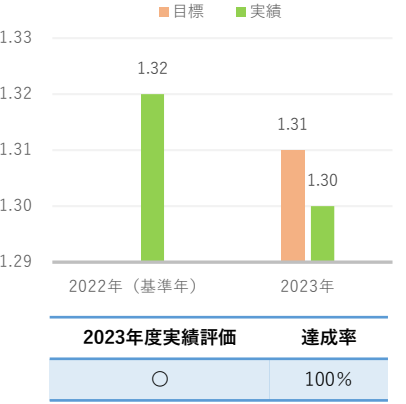
◆軽油
【物流課】燃費（k m/L）



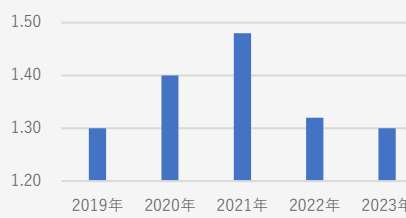
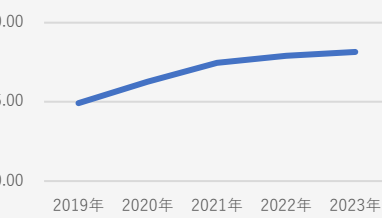
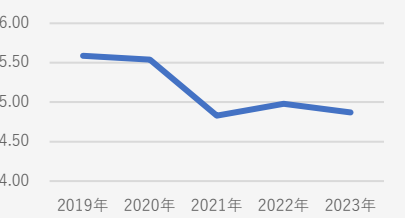
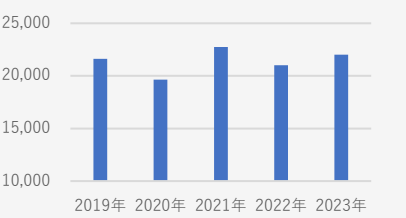
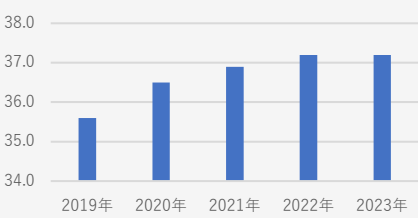
◆ガソリン
【営業/総務課】燃費（k m/L）



ガス使用量（㎡/千㎡）



過去5年の推移状況（中期推移）



最も重要な課題。生産性向上により成果を出す

本社工場は、多くの生産機があることから生産状況により電力の増減が大きくてしまうので、対生産量比（千平米あたり）での電力消費を目標として取り組んでおります。今期は目標に対し若干の未達、ここ数年では増加傾向で推移しております。より生産効率を向上させ時間当たりの生産性を増加させることで稼働のメリハリ、そして時間外労働の削減に取り組むことでより成果をだせるよう取り組んでまいります。電力使用量でのCo2排出量が増えることも多いことから、このテーマが結果的にもっともCo2排出量の削減に貢献できることでもあり重要性の高い課題となっております。

職場環境が大きく変わる中で今後の取り組みに期待

塩田工場は、長期的（ここ10年）には3割以上の電力使用量削減を行ってきたが、ここ数年は下げ止まり感が出ています。数年前より毎期設備更新を行っていることも要因となっています。来期中旬に大型プレス機を更新するのでその後の推移をみていきます。今期は94%の達成率でしたが、これまでメンバーのエコ活動が大きく芽がでている工場であり、各自の活動に期待します。来期は大型設備の導入に合わせて最新LED照明への切り替えも予定しております。今後の大きな減少は厳しいですが、毎年着実な成果が出せるようPDCAを回していきます。

老朽化が懸念されるがエコ運転/効率化の定着でカバーする

2021年度に大型トラックを更新（排気量増加）した影響で全体での燃費が悪化しており、今年度それを考慮した目標を設定しましたが、わずかに未達成となっています。そのほかのトラックの老朽化による燃費悪化は避けられませんが、各ドライバーのエコ意識の高まりは年々定着化していることからハード面の更新も検討しながらソフト面での対応を今後も継続してまいります。日々の配送の効率化にも取り組みます。電力に続き、当社全体のCo2排出量の36%を占めていることから今後の削減への取り組み強化が求められております。

全車の毎月の燃費チェックにより高いレベルを維持する

所有車はすべてハイブリッドカーであり燃費向上の推移が見てとれます。今期も目標値をクリアできましたが、更新後一巡したために、今後の大きな伸びは厳しいために、トラックドライバー同様にエコ運転の確実な定着を行ってまいります。車ごとの実績燃費を毎月行いドライバー間でのプレがおきないように指導しております。軽油同様にガソリン価格の高騰が止まらないことから（特に長野県は日本一ガソリン価格が高い県）、コストダウンへつながる重要な取り組みと位置付け、関係者への取り組み強化を進めてまいります。

ここ2年の取り組み成果がでてきており取引先も含め今後に期待

ガス使用用途のほとんどはボイラーによるものでありこれまでなかなか改善することが難しかった課題であったが、今期・前期と少しずつの改善効果がでています。最良の品質提供をするためには、材料の入荷状況や気象状況により使用頻度が変化し自社の取り組みのみでは使用量を減少させることが難しい課題ではあるが仕入先様との情報交換によりサプライチェーンを通じて減らす取り組みを行ってきております。社員の減少させねばという意識も根付いており今後に期待できる課題であります。

12-2 Environmental Management Report 2023

二酸化炭素排出量の削減

産業廃棄物排出量の削減

排水量の削減

生産性の向上による省資源、省エネルギー

時間外労働時間の削減

在庫回転率の向上

減容チップ排出量の削減

環境/SDGs に配慮した設計、製造工程等の改善

顧客クレーム削減

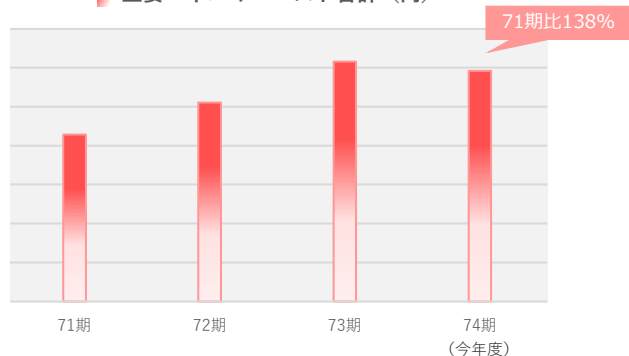
不良率低下による省資源、廃棄物の削減

エネルギーコスト & 産廃処理コスト 推移

エネルギーコスト推移を全社員へ定期的に開示し共有しています

コスト意識の共有

■ 主要エネルギーコスト合計（円）



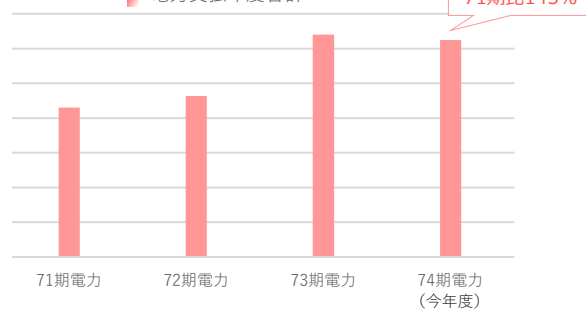
3年間でエネルギー関連コストが約4割上昇！ 企業を存続させるためにもさらなる環境活動は必須に

当社においてはここ3年余りでエネルギー関連コストが約4割上昇しています。ロシアとウクライナ紛争、継続する超円安の影響もあり今後エネルギー関連コストは下がる見込みはないと想定しています。だからこそ環境負荷削減活動を推進することでコストダウン効果をより大きく発揮することが求められています。この意識を社員全員と共有するために毎月の推移を開示し全員での活動強化を目指しています。特に電力のコストUPが止まりません。しかし今期は販売を増加しながら支払い費用を削減できたことは大きな評価であります。

一方で、産廃処理費用においてはここ数年産廃削減活動の推進により削減できております。

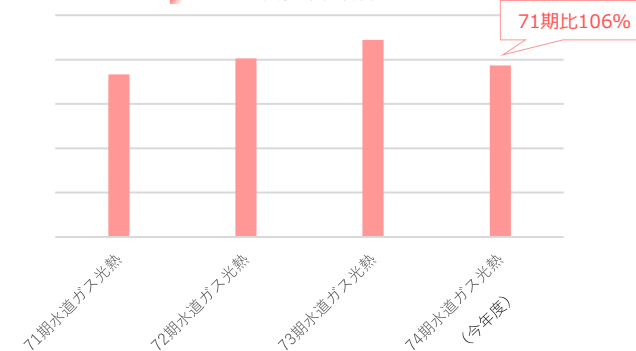
当社は理念でもある持続可能な社会づくりへ貢献するために環境負荷削減への取り組み活動に継続して取り組んでおります。同時に付加価値を向上させ企業価値の向上につなげていくことを目指しております。自分たちが取り組んでいる活動が環境負荷をどの程度削減させているのかはもちろん、同時にどのようなコストダウン効果がでているのか社員に開示しコスト意識を共有し取り組みの強化につなげております。自分たちの取り組みで生み出した付加価値を皆で分配し、やりがいの達成、モチベーションアップにもつなげております。

■ 電力支払年度合計



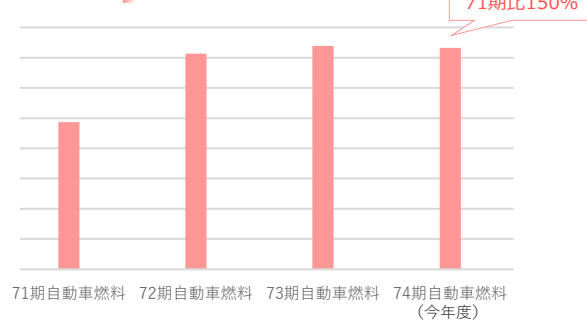
現在の大きなコストUP要因のひとつ。今後さらに電力単価が高騰していく中で節電対策は大きな課題。省エネ設備投資からも検討を進めてまいります。

■ 水道ガス支払年度合計



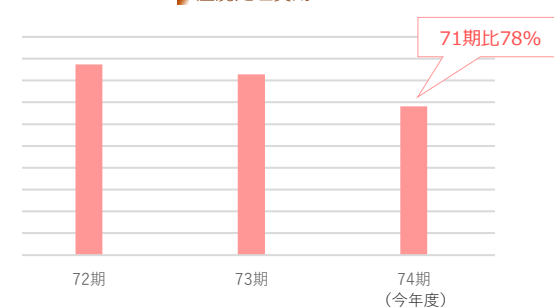
今期は社員の取り組みによりガスの使用量を削減できたことで費用を抑ええることができました。ボイラー使用での削減に引き続き取り組みます。

■ 自動車燃料年度合計



長野県は内陸部ということもありガソリン価格が日本一高い県です。エコドライブにより燃費向上につなげるとともに、燃費効率の高い車に更新していくことも検討していきます。

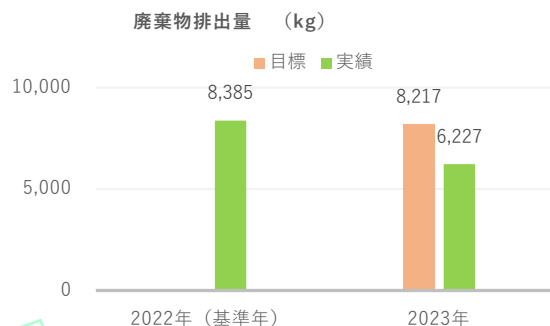
■ 産廃処理費用



今期は特に廃プラ以外の種別の排出削減が大きく、その結果処理費用の削減結果につながりました。引き続き廃プラを中心に産廃排出削減に取り組むことでコストダウンへつなげます。



産業廃棄物排出量の削減



TOPICS

発泡緩衝材サンテックフォームのロスが再生PE袋に！

サーキュラーエコノミーへの取り組みを進め
持続可能な社会づくりに貢献します

今年度末より当社の主要販売商品である発泡PE緩衝材「サンテックフォーム」の製造段階で発生するロスが再生PE袋に生まれ変わりました！
現状発生したロス材は減容機に投入し細かなチップ状となります。それを交流のあった協力会社様に引き取っていただき、再生PE袋に加工していただきます。
これにより当社で製造している原材料はすべて棄てることなく次の商品の原料として生まれまわることになります！
協力会社様と共に資源循環型に取り組むことで持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



【持続的なマテリアルリサイクルへの取り組み】
サンテックフォームロス
を原料とした再生PE袋



1社でなく他社との
連携により実現！

2023年度実績評価	達成率
◎	124%

POINT

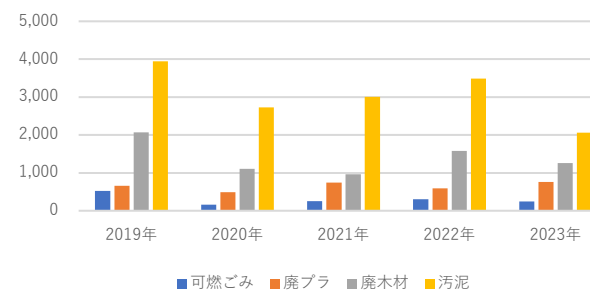
廃プラ以外の排出量を削減したことで目標値を大きくクリアし目標達成

廃プラだけが前年増となり目標未達成となったが、その他の種類はすべて目標値を大きくクリア。その結果、産廃主要4項目合計排出量も、前値比-28%と大きな成果を出すことができました。廃プラと廃木材は、不要になった印版と抜型の処分を実施した年度に大きく増加する傾向がありますが、日常活動での産廃排出量は各自の意識の高さ、再利用等の工夫により取り組み成果が出てきております。今期の反省を活かし廃プラ排出量の主な発生要因と減少への活動を強化していきます。

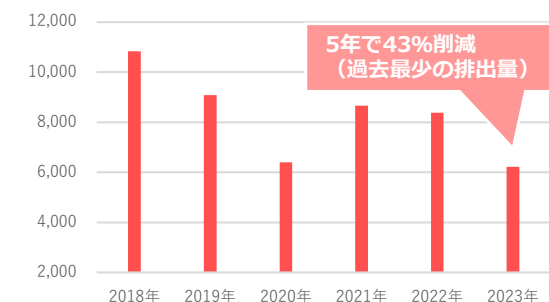


長野県SDGs推進企業登録制度の目標でもあります

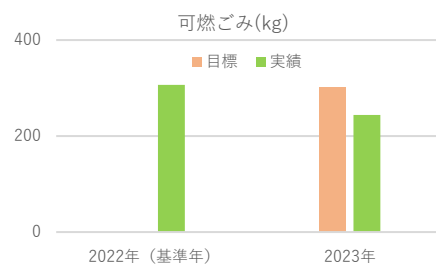
主要品目別排出量推移 (過去5年間)



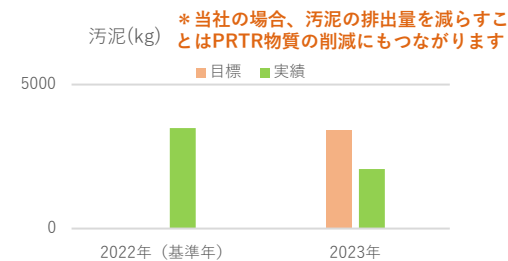
産廃排出量推移 (kg)



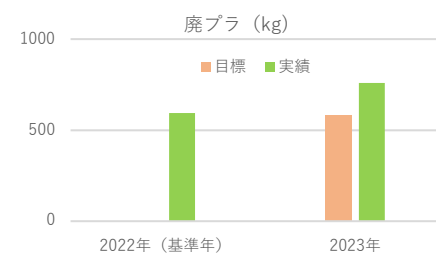
産廃項目別目標&実績



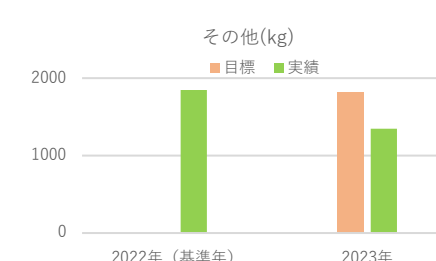
2023年度実績評価	達成率
◎	123%



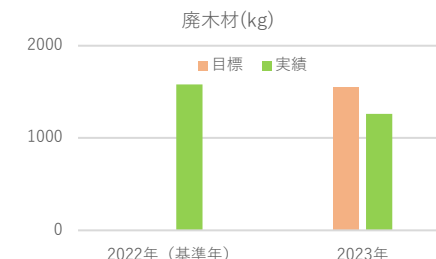
2023年度実績評価	達成率
◎	166%



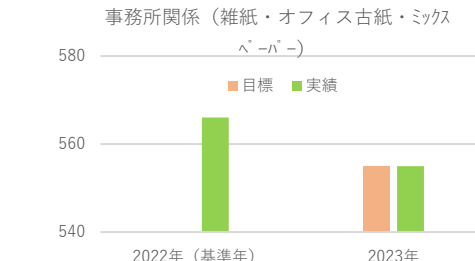
2023年度実績評価	達成率
×	77%



2023年度実績評価	達成率
◎	134%

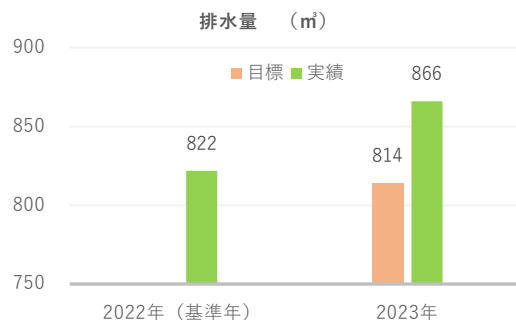


2023年度実績評価	達成率
◎	123%



2023年度実績評価	達成率
○	100%

排水量の削減

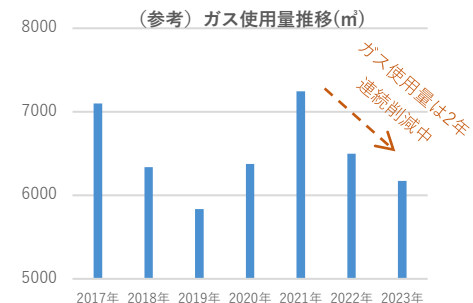
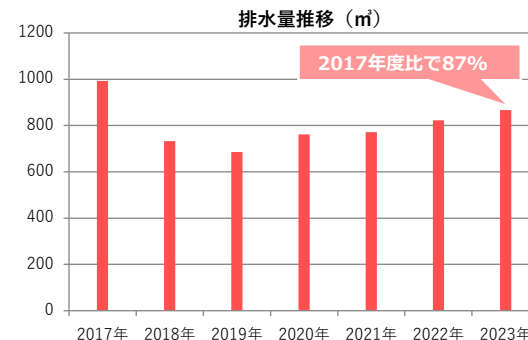


2023年度実績評価	達成率
△	94%

POINT

ここ数年は毎年微増傾向。ボイラーでの水使用の影響が大きい。直近2年は連動せず。

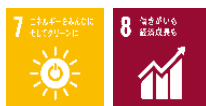
水は生活用水、印版洗浄用、ユニット色替え時洗浄、そしてボイラーでの使用がほとんどですが、直近2年はガス使用量が減少しているにもかかわらず、排水量は増加傾向ということは、ボイラー以外での使用に大きな要因がありそうです。関係者においてはロットごとの色替え時のユニット洗浄の状況、印版洗浄での使用状況の再度の見直しをお願いします。生活用水は節水活動を継続しているので引き続きの取り組みを進めます。増加傾向になっている排水量の削減取り組みを強化していきます。



ここ2年、排水量の増加はボイラー使用頻度と連動していない！

直近の2年間はガス（ボイラー使用）使用量が削減しているのに、排水量は増加。つまりボイラーでの水使用が大きな要因ではない可能性があります。製函機での色替え時のユニット内洗浄と印版洗浄機の使用での状況を見直す必要があります。

生産性の向上による省資源、省エネルギー

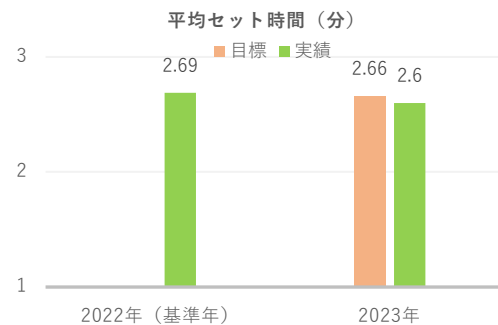


POINT

環境負荷削減と生産性向上（コストダウン）への重要目標。販売部門の協力のもと（受注内容改善）目標へ向けて取り組む。

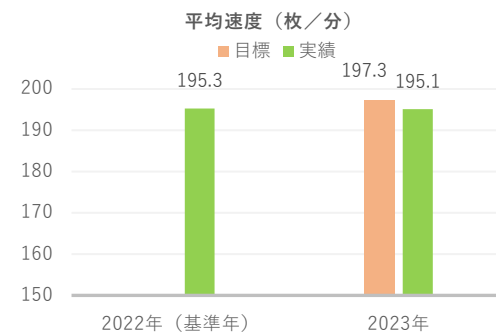
昨年までのエコアクション21環境目標から引き続いての重要目標です。メイン生産機である「アイビス」のセット時間短縮と生産速度向上についての生産部門の目標でもあります。セット時間短縮にはオペレーター取り組みのみでは限界があり、受注内容の改善が必要なことから販売部門の協力が不可欠です。また速度向上には常に機械状態を良好にし歩留改善には一定の設備投資・メンテナンスも必要となりますが取り組んでまいりました。その結果これまでの傾向は改善傾向で推移しているので引き続き、細かな改善の積み重ねを行ってまいります。

主力生産機アイビス
セット時間の短縮

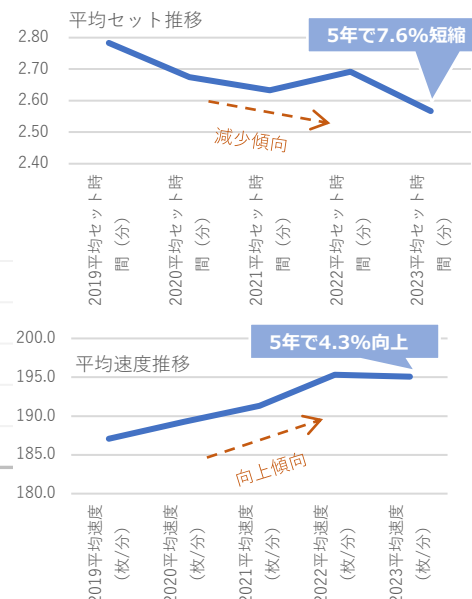


2023年度実績評価	達成率
○	102%

主力生産機アイビス
平均速度の向上



2023年度実績評価	達成率
△	99%



最も電力消費量の大きな設備であるアイビスのセット時間短縮と平均生産速度向上を目指し消費電力削減と生産性向上に努めています

ロットごとの印版替え作業が必要です。これをどう改善していくか？

次ページに続く

* 赤字→【販売、業務部門】の取り組み内容

生産性向上による省資源・省エネルギー目標 活動計画の主な内容

同色インク製品を連続生産しインク替えのセット時間を短縮する
無駄な動作がないかどうかの検証と改善活動（歩く無駄、待つ無駄、探す無駄等）
印刷色、型の有無を考慮した事前生産計画の立て方（無地連続製造）
ロットごと、商品ごとの 最高生産速度への挑戦
印版管理徹底（印刷ミス歩留まりの向上）
小ロット短品種の受注改善（ロットの取りまとめ）【販売部門】

同一商品の連日生産が起きないようにロットの集約、段取り改善 【販売、業務部門】
オペレーターのチームワーク、コミュニケーション向上
印刷色に応じた段取り実施（例：1色、2色等）
同色系インクの色統一をすすめインク色の集約をすすめる【販売部門】
機械メンテの徹底（メーカーとの情報交換密）、機械改造の検討と実行
シート仕入れ先からの良品シートへの購入依頼、指導

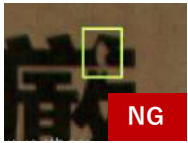
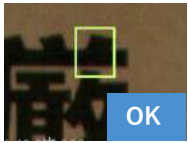
仕様決定段階、受注段階での改善が必要不可欠です

販売、業務の協力がなければこれ以上の大きな成果にはつながりません

ロット切り替え時は必ず設備を停止させ、寸法セット、印版交換、インク交換が発生します。今まで以上にセット時間の短縮を進めるには小ロット多頻度納入品のロットまとめの顧客への依頼（速度向上にも貢献）や、同色系インク色の集約改善要望が必須です。業界でも取り組んでいる事項でもあります。環境負荷削減にも大きく貢献する事項です。
また少し先を見た生産予定から、同一製品のまとめた製造が可能かどうかの検討も必要になります。現在の生産管理システムの機能を最大限利用しての取り組み推進をお願いします。

TOPICS

I 全数画像検査により品質検査を実施。不良発生時でも速度を落とすことなく抜き取り除去しています



←画像検査でわずかの印刷不良も見逃しません！
（ロス削減→環境保全にも貢献しています）

本設備には最新の画像検査カメラが導入されています。最大生産能力（250枚/分）で生産される全数をカメラで正しいデータと比較し、万が一印刷抜け・カスレ・ずれ、破れ等が発生しても不良ケースを特定することで生産速度はそのまま不良を除去します。生産性向上に大きく寄与していることに加え、歩留まり向上、オペレーターの負荷低減、環境負荷低減に貢献しています。
従来までは、抜き取り検査レベルであったことを考慮すると、信用信頼性の向上にもつながっております。

II 品質と生産性向上に大きくかわるベルト/刃物の早めの定期交換により常に最良の状態を保持しています



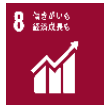
←従来までならば交換時期ではないと使用を継続していたはずのベルト（高速搬送のわずかなズレを防止し品質向上につながる）や刃物（スリッター刃、野線刃）などの消耗品の交換頻度を高めております。これにより高い品質性の維持を行うことで、歩留まり向上・信用信頼の向上、そして環境負荷の低減へとつながっております。電装品や各種部品においてもメーカーとの密な交流により早めの情報を取得することで不測の機械停止を防止しています。以前は就業期間中に生産機のチョコ停・長期停止などにより時間外労働時間が発生していたことがたびたびありましたが、ここ最近ではゼロとなっており計画的な生産が維持できていることが環境負荷の低減にも貢献できております。

コンパクトシステムでは生産性向上・品質向上への取り組みは環境貢献への取り組みと切り離した別テーマではなく直結していると認識していることから環境目標に設定し両面への貢献を目指しています

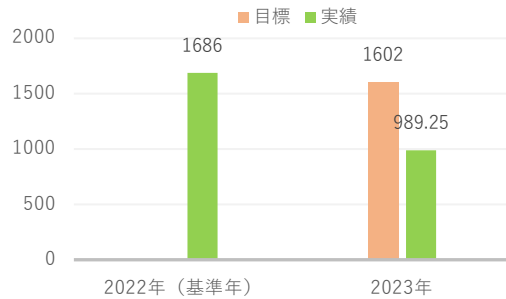




時間外労働時間の削減



時間外労働時間



2023年度実績評価	達成率
◎	162%

POINT

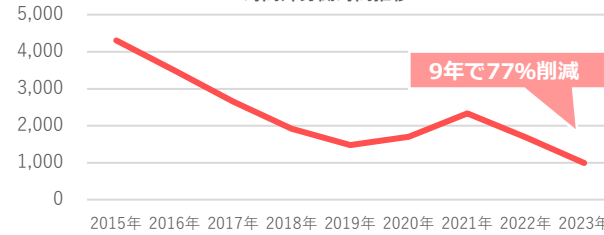
SDGs目標の「有給休暇取得率向上」と合わせて大きく目標値をクリア！

今期よりの新目標であるが、目標達成には全部署の生産性向上や助け合い、多能工化が求められる。総労働時間を減少させ、社員のワークライフバランスに貢献しプライベートも充実した時間を過ごしてほしいと考えています。有給取得率向上も現在大きな成果を上げておりますが本目標も同時に取り組んでいきます。モチベーションアップにもつなげ業務とプライベートのメリハリをつけることにより全体の環境負荷削減にもつなげていき働きやすい職場づくりに取り組んでまいります。1時間単位での有給制度も以前より導入し取得率向上を推進し、遠慮せず休める取り組みを進めております。社員からも以前の会社とかなり変わってきており大変喜ばれております。社員満足度向上に努めることを会社として取り組みます。時間外労働時間が減少することで各種エネルギーの削減に貢献しております。

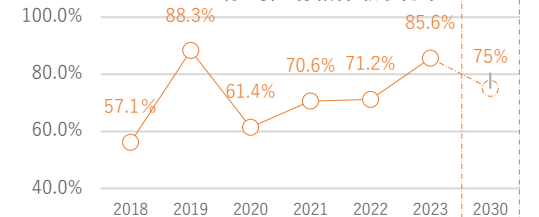
働きやすい職場を目指して・・
TOPICS

- ・一時間単位で活用できる「時短有給制度」を導入しております。自身の都合で一時間だけ仕事を抜きたい、などの場面で多くの社員が有効に活用しています。大変好評な制度です。
- ・女性が離職することがないよう、産休・育休に関して周りの理解・応援のもと活用しています。
- ・人間ドック、成人病検診に関して、受診した社員には会社補助を支給しています。
- ・夏場の熱中症対策として、無償でのドリンク支給を行い社員の健康管理に配慮しています。

時間外労働時間推移



(参考) 有給休暇取得率



長野県SDGs推進企業登録
制度の目標でもあります



SDGs目標

環境にも働き方改革にも貢献！両目標ともここ近年、大きな成果を上げて推進中！社員がプライベートも充実した時間を過ごすことでモチベーションアップにつなげ生産性向上に挑戦しています！

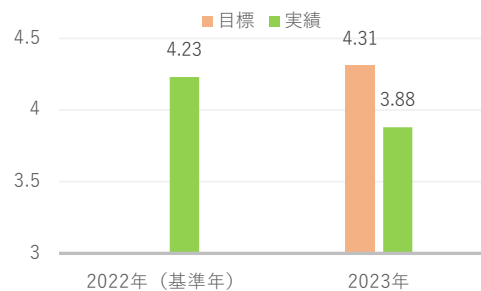
販売、生産が増加していても時間外労働時間の削減、有給休暇取得率向上につながっています。生産性向上の成果がしっかり発揮できてきていると評価しています。これにより各種エネルギー関連消費（特に電力）が減少していることにつながっております。



在庫回転率の向上



在庫回転率 (回)



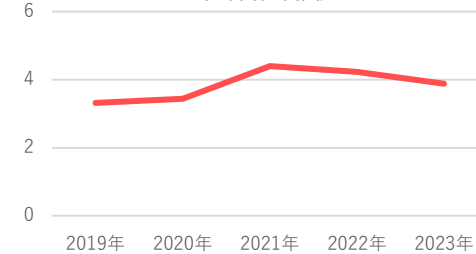
2023年度実績評価	達成率
△	90%

POINT

改善傾向で推移していたが直近2年間の回転率は悪化中。在庫の増加は経営につながる取り組みなので要注意とみており需給内容に合わせた管理を徹底します。

在庫回転率の悪化は需要動向が見通せないことが要因ですが、商品劣化→最終的に処分（環境負荷を悪化させ、大きな損害影響による負荷減少、キャッシュフローの停滞）の悪いフローにかつて悩まされたことがあるために最近の環境目標に設定中です。以前より改善傾向で来ていましたがここ2年は悪化しており要因は中長期在庫が増加していること、販売が弱みになっている側面があるが、フォーキャストの見込みがしっかりできていれば改善可能、また顧客への交渉も進めることで在庫圧縮にとりくみ最終的に環境負荷削減につながらないように来期以降再度の取り組み強化をしてまいります。

在庫回転率推移



活動計画の主な内容

毎月1回実地棚卸を行い、正確な在庫数を把握し要注意在庫一覧表を回覧し、月次チェックを確実に行っていく

整理・整頓・清掃を行い、商品の在庫場所を明確にする

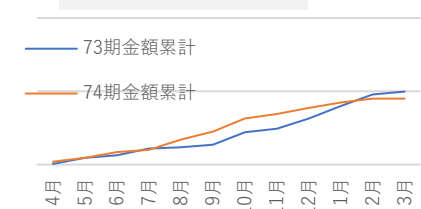
フォーキャストを正確につかみ需要動向を見極める

責任の明確化と先送りしない決断

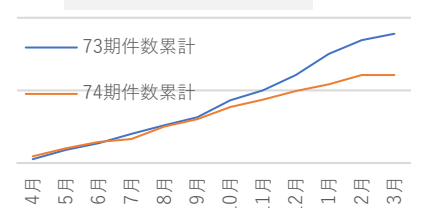
1か月間の在庫チェックと毎月の在庫チェックにより厳しい管理を行っています

毎月一回の在庫チェックは当然ですが、現在は一か月間、在庫チェックを関係者で共有し、在庫チェックの数を削減し、在庫チェックの頻度を下げ、在庫チェックの負担を軽減し、在庫チェックの効率化を図ります。

1か月間出庫がない在庫金額累計



1か月間出庫がない在庫件数累計





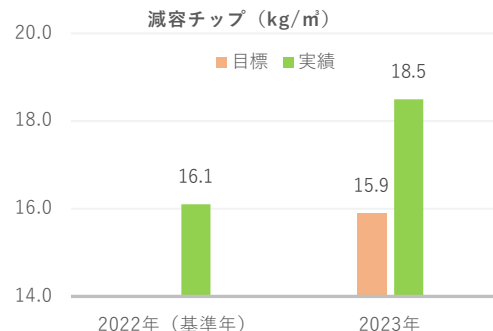
減容チップ排出量削減

ロスは“宝”

12 つくば市
環境局



サンテックフォームロス削減



2023年度実績評価	達成率
×	86%

POINT

使用量 (m) に対しての排出量目標であるが今期は大きく目標未達成。排出チップは再生PE袋の原料へ (サーキュラーエコノミー)

排出量合計の目標設定だと生産量の増減に対して変化するので公正な評価ができなかったために、前期2022年度より、mあたりの排出量目標 (原単位目標) に変更しました。今期は達成率86%の結果となってしまいました。原反からの製造時に発生するロスであっても購入材料の一部のため、「お金を捨てている」の発想のもと最小のロスにとどめる取り組みを行い環境負荷削減と付加価値の拡大に努めます。来期も設備投資を実施予定ですのでその能力を活かし改善策を練ってまいります。対策は大きく①ロスの有効活用②設計時でのロスを最小にする設計業務となります。なお、今期末より協力会社との取り組みにより排出チップは全量再生PE袋の原料となることで、サーキュラーエコノミーにつなげております。

ロスは「利益を捨てていること」という意識を常に持ち今後の改善策に期待します
ロスを減らし①環境負荷を下げるるとともに②収益改善 (付加価値増加) に結びつけています

サンテックフォームの原材料入荷から製造時に出るロス材の流れを説明します

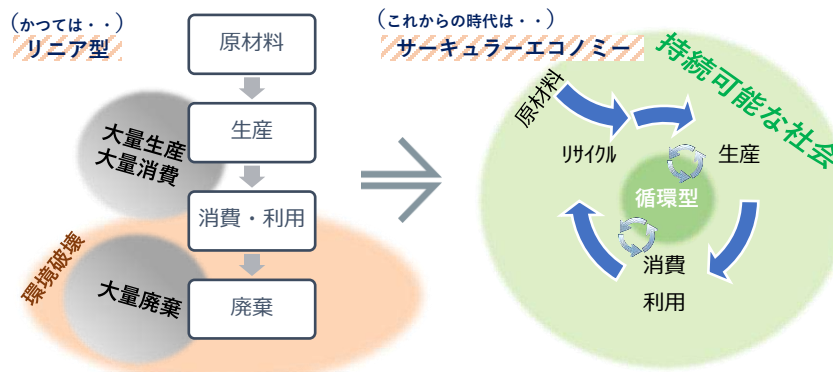


発泡PE緩衝材工場においては産業廃棄物が「ゼロ」のサーキュラーエコノミーに貢献する製品づくりを行っております
【ダンボール工場においても以前より、ロス材はすべて製紙会社へ送られダンボール原紙として生まれ変わっています】

コムパックシステムではサーキュラーエコノミーを意識したモノづくりに取り組みます

サーキュラーエコノミーとは・・・

環境問題への配慮がされていない時代は、大量生産・大量消費・大量廃棄が行われていましたが、現代では「限りある資源を再利用 (リユース) ・再資源化 (リサイクル) する事が求められています。直線的で大量消費・大量廃棄の状況を「リニア型」と呼んでいます。今まで廃棄されてきたような製品や原材料を「資源」と考えることで、持続可能な状態で循環させる経済の仕組みのことをサーキュラーエコノミーと言います。「できるだけ長く使う」「できるだけ廃棄しないで済むようにする」「できるだけ再生利用する」などの考え方が一例です。当社の主要製造品目であるダンボールはその工程で発生する端材、ロスはすべて近隣の製紙メーカーへ送られ再びダンボールの原料である原紙に生まれ変わっています。「リサイクルの優等生」といわれる環境に優しくサーキュラーエコノミーにも貢献する資材です。このたび緩衝材端材についても新たな商品に生まれ変わるシステムが構築できたことで当社の製造品目のほとんどが循環型サイクルに貢献していることになります。



強化ダンボールの原料も“ロスは宝”です

サンテックフォームと同様に主力販売品目である強化ダンボールも、原反・シート・加工工程において、CAD/CAM活用により最小限の排出にとどめる取り組みを進めています。



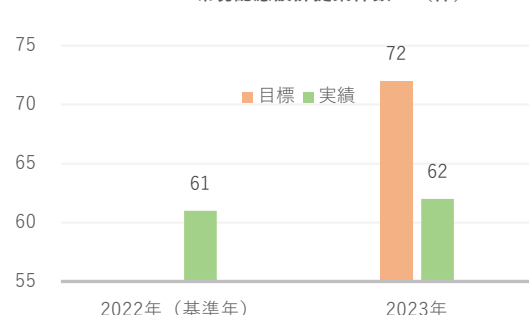
当社の生産活動において、他にも貢献できる取り組みがないかどうかの検証を常に行い、自社のみならず他の企業との連携も模索してまいります



環境/SDGs に配慮した設計、製造工程等の改善



環境配慮設計提案件数 (件)



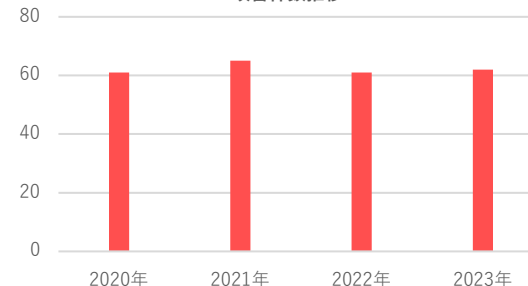
POINT

今期より目標レベルを向上させたが前期比同数で未達成の結果に。関係者の環境意識レベルを上げなければ来期以降も厳しいことが予想されます。

新たな環境 (SDGs) 配慮設計毎月6件以上、年間72件以上を目標としてスタートをきったが、結果62件となり大きく未達成となりました。これまで一定の成果が出ていましたが、目標値を上げたことで新たな切り口からの積極提案を行わなければ今後も厳しいとみています。厳しい目標設定ですが主に営業担当者は各自が設計提案のレベルと包装知識をさらに向上させていくことを願います。それができたときは、当社の強みを押し上げることにつながるはずです。環境とSDGsへ貢献できるような設計や工程完全の各取り組みを行ってまいります。

2023年度実績評価	達成率
×	86%

改善件数推移



各提案を横展開することでそれぞれがお互いに切磋琢磨し包装レベルを向上できるよう社員教育のツールとしても活用していきます

今期取り組んだ主な内容の一例

- F SC®段ボールの採用拡大
- ワンウェイ梱包からリターナブル化への提案
- 部品の共通化による資材数低減
- 複数ケースの統一化 (在庫削減)
- インクの集約により環境負荷削減
- 通常品からリサイクル原料のプラダンへ切り替え
- 展示会使用での紙製什器設計製造
- 糊を使用しないはめ込み式緩衝材設計
- 軽量化、薄物化、オール段ボール化、共通化等多数実績あり

TOPICS

サンテックフォーム® V45 (バイオマス度85%商品) の販売スタート!

来期初旬に当社お客様で採用予定です

サンテックフォーム® V45 バイオマス 85%

サンテックフォーム® V45 製品特性

■ サンテックフォーム® V45 素材

- ・ サトウキビから生産されたバイオマスポリエチレンを使用
- ・ バイオマスマーク商品認定バイオマス度85%



* メーカーHPより

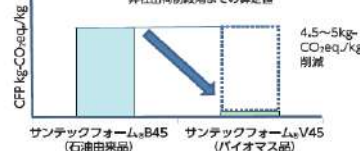
バイオマス度85%の環境配慮商品です

サンテックフォーム® V45CFP 削減量

- サンテックフォーム® V45 CO₂排出量
- 既存サンテックフォーム® B45をサンテックフォーム® V45に切り替えた場合CO₂排出量はフォーム製品1kgあたり4.5~5kg^{*}削減

* 1 LDPE製造 (原材料輸入、輸送) を含む

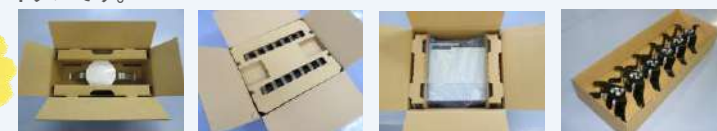
サンテックフォーム® V45への切替によるCFP削減量
弊社出荷前段階までの算定値



* 原料であるサトウキビが収穫時に吸収したCO₂を削減した算出値

* 当社の主要販売品目の一つである発泡緩衝材であるサンテックフォームについて、サトウキビ由来の「バイオマスグレード」を販売いたしました。従来の商品に比べライフサイクル全体において、大幅なCO₂排出量の削減に貢献できます。お客様への積極的PR活動と販売促進に取り組み環境配慮商品の拡大に向け取り組んでまいります。

環境に配慮したオールダンボール製の緩衝材の一例です。設計・試作品作成後は落下試験等評価試験を社内で行い最適設計提案を行っております。使用後は100%リサイクルです。



新規ご相談は当社まで!

本目標を強化することが当社の強み・他社との差別化につながる。そして独自性ある提案活動ができることで付加価値の拡大につながっていくことを社員皆で共有し取り組みが弱まることのないよう引き続き進めていきます

本取り組みにより開発した製品が評価していただきました

プラー紙へ転換



インクカートリッジ本体をプラから紙へ転換したことが評価され、公益社団法人日本包装技術協会(JPI)主催の「2023日本パッケージングコンテスト」において、【工業包装部門賞】を受賞いたしました

TOPICS



障害者施設へ工程の一部を依頼し障害者の方たちの社会参加と働く機会の提供にも取り組んでいます

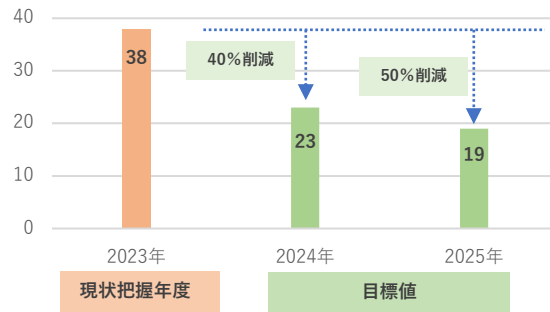


顧客クレーム削減

12 12月期実績
12月期実績

社外流出したもの

クレーム件数 現状把握実績と今後の目標



2023年度実績評価 達成率

38件 現状把握年度

POINT

今期38件発生！2年後に発生
件数半減を目標に取り組みを
すすめていきます。

社外（お客様）から受け付けたクレーム事項（製品自体のクレームだけではなく、接客対応などのささいなことも記録）を今期初めより集計・内容の記録をするために現状把握年度としました。従来までは発生時に都度対応を行い対処してきましたが、詳細に内容の記録を行ってこなかったため、改めて把握していくとまだまだ改善しなければならない反省点が多く発見できました。クレームは移動・検品・廃棄・作り直し・再納入など環境負荷も悪化してしまう要因にもつながるので今期より環境目標として設定し対策を検討し再発しない仕組みづくり、信用信頼の向上、環境負荷削減に取り組んでいきます。

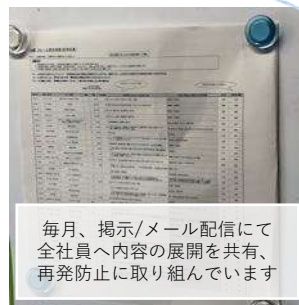
理念にも謳っている「お客様満足度向上」
にも貢献する取り組みでもあります

74期代表的なクレーム内容

- ・納品時の傷・汚れ（最も多い）
- ・手配間違いによる誤商品納入
- ・接合部のずれあり
- ・緩衝材の剥がれ
- ・返信が送れていることへの注意
- ・納期回答が遅い
- ・伝票記載についての要望
- ・組み立て方法の間違い 等

クレームの内容によっては当社責任によるものなのか納入後の発生によるものなのか不明なものをいくつか含まれていますが、お客様が困っていることは事実なのでカウントしております。来期も発生時の状況から適切に判断していきます。

発生内容を社内共有し
横転嫁することで再発
防止に努めております



毎月、掲示/メール配信にて
全社員へ内容の展開を共有、
再発防止に取り組んでいます

～本目標の狙い～

- ・クレーム削減への取り組みを通じることで結果、環境負荷を低減させる効果を発揮でき、顧客・自社・社会にも好影響を与える
- ・クレームを社内でも共有することによって、社員全員が自社の問題点を認識することができ、実際にクレームを受けた部署以外の業務の改善にも活かされる。
- ・クレームを受けることは、前向きに捉えれば、顧客視点の問題点を教えてもらえたということ。それを活かしていく。
- ・クレームに素早く対応し、再発防止に努め信用信頼の向上に全社で取り組む。（二度と同じ失敗をしない取り組みを）

コンパクトシステム品質方針

1. お客様満足の上を目指し、お客様の望む規格以上の製品とサービスを常に提供します。
2. お客様要求事項への適合及び法規制・内部規定を順守し、あらゆるミス・間違いを未然に防止し、品質マネジメントシステムを継続的に改善します
3. 全従業員が目標達成への意欲と愛社精神を育み、全社員でより良い製品作りを実現し社会に貢献します

活動計画の主な内容

発生頻度の多いケアレスミス（ちょっとした思い込みや不注意、慣れ）の撲滅 → 危険性のあるものは第三者によるダブルチェックの実施を行う

「次工程はお客様」の意識で自部門での製品に対するこだわりを持ち、少しでもおかしいと思う場合には上長にホウレンソウの実施

異常時は社内ですとどめ、社外流出させない仕組みづくり
※最終部門の出荷（運転手）の納品時製品の最終チェックを実施（異常時は即連絡）

毎月進捗（達成）状況を全社で確認し再発防止策の徹底を図り常に作業時のモチベーション向上を図っていく

多能工化をすすめながら品質の一定化を図る社員教育を各リーダーが行う

発生時には影響度の大きさを調査し、即座の顧客対応と社内展開をおこない、改善策を即実施する

決められた作業方法、ダブルチェック、マニュアルを守る（ルールを守る）

信用信頼を向上させると同時に環境負荷削減にも貢献していく

商品開発
に活かす

社員教育

顧客満足
度向上

社員モチ
ベーション
向上

信用信頼
向上

自社課題・弱点
の明確化

環境負荷
削減

廃棄、作り直し、
再納入をなくす

クレーム対策/クレーム管理/クレーム削減 の重要性



不良率低下による省資源、廃棄物の削減

12 つくば環境
つるぎ実証



社外流出していないものも含む

今期より発生場所が工場なのか事務所なのかを区別し取り組みの強化を図っています

POINT

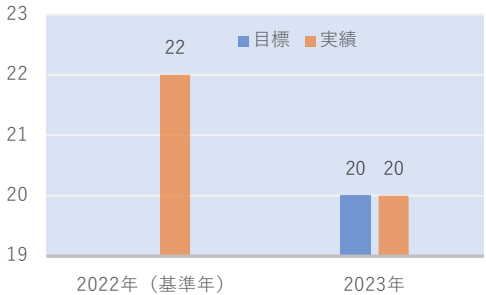
昨年までは全社会計での取り組みを行っていましたが、今期より発生要因が工場管理分

なのか事務所管理分なのかを区別し責任の明確化を行いながら再発防止につなげ付加価値向上、環境負荷削減に取り組んでおり今期は全項目において目標を達成しました。これまでの取り組み成果が出てきています。

事務所・工場管理分とも件数と金額目標において目標達成しました。特に発生金額においては両部門とも目標に対して大きくクリアでき大きな発生案件はなく通期を過ごすことができました。これも各自の意識の変化によるところが大きいと評価しています。しかしまだまだケアレスミスがあり信用を落としてしまう”もったいない”発生もありました。再手配・再製造・再納品は付加価値減少や環境負荷への影響度も大きくなるので継続して削減への取り組み活動を進めてまいります。別目標である「顧客クレーム」につながらないように社外への流出防止にも努めてまいります。

工場管理分

破損品（件）＜工場＞



2022年（基準年）

2023年

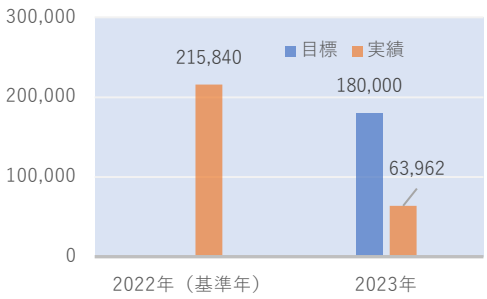
2023年度実績評価

達成率

○

100%

破損品（金額）＜工場＞



2022年（基準年）

2023年

2023年度実績評価

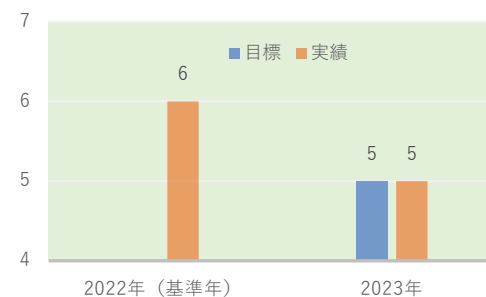
達成率

◎

280%

事務所管理分

破損品（件）＜事務所＞



2022年（基準年）

2023年

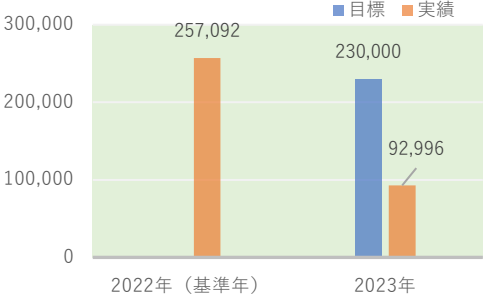
2023年度実績評価

達成率

○

100%

破損品（金額）＜事務所＞



2022年（基準年）

2023年

2023年度実績評価

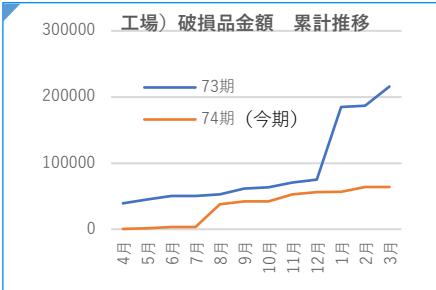
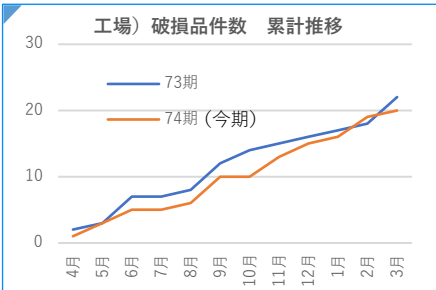
達成率

◎

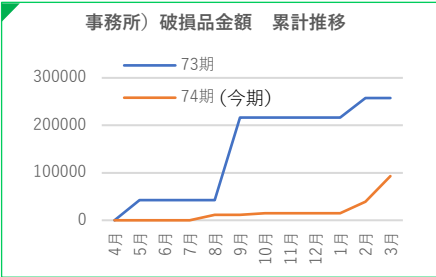
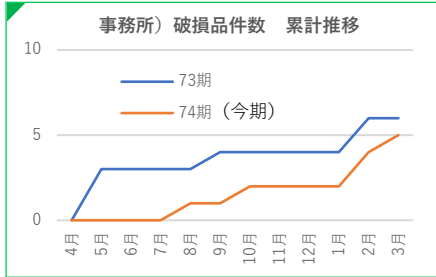
247%

*本目標でいう破損品とは、製造・納品時でのミスや傷などによる自社内での損失のことを指しています。事務所発生分とは、受注時の手配ミス等を主に指しています。

工場管理分推移



事務所管理分推移



環境負荷
付加価値

増減

工場

【主な発生要因】
・加工ミス
・キズ
・製品のこすれ
・結束破れ

もったいない・・・

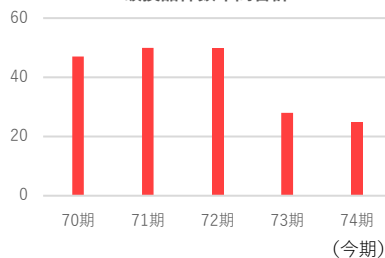
事務所

【主な発生要因】
・誤発注
・登録ミス

前回の環境目標に組み込んでから
着実に成果が出てきています

前回の環境からの引き続きの目標テーマになりますが、年度での増減はありますが確実に減少傾向で推移しています。日々の活動の中で1つ1つの業務に緊張感を持ち取り組むことで必ず成果は出てきます。環境負荷削減にもつながる取り組みですのでさらなる成果に取り組んでまいります。

破損品件数年間合計



破損品年間合計（全社）



コムパックシステムの持続可能な取り組み コムパックシステムは持続可能な原料調達からリサイクルまでの一貫した循環型のモノづくりに取り組んでいます

リサイクルへの取り組み



産業廃棄物を減らすとともに環境負荷の低減、環境保全、循環型社会へ貢献する取り組みを積極的に推進しています

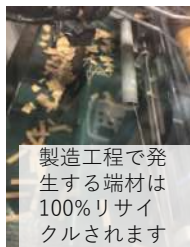
原材料のロスは“すべて”リサイクル！

コムパックシステムの主要製造販売品目であるダンボールは、使用後は100%リサイクルが可能です。ダンボール古紙は再びダンボール原紙に生まれ変わります。ダンボール製品の80～100%はダンボール古紙で出来ており、循環型社会には欠かせない優れたリサイクルの優等生です。現在、生産部門で出る端材はすべて古紙として集め、製紙会社へ持ち込まれ再び段ボール原紙として生まれ変わっています。



コムパックシステムはリサイクル促進の啓蒙活動に取り組み、リサイクル率の向上に努めています。

当社は、最終消費者へリサイクルの循環を促すために、ダンボールへのリサイクルマークの印刷を積極的に推奨しており、印刷があるケースにはほぼすべての商品にリサイクルマークの印刷を実施しております。（無地ケースの場合は印刷工程が増え、環境負荷を増加させてしまうために、リサイクルマークの印刷はしていません）コムパックシステムは持続可能な原料調達からリサイクルまでの一貫した循環型のモノづくりに取り組んでいます。



製造工程で発生する端材は100%リサイクルされます

持続可能な調達に貢献するFSC®森林認証の取得



持続可能な森林資源を引き継ぐために、当社は本社工場にて2018年2月27日にFSC®森林認証(COC認証)を取得し、お客様に持続可能な調達への貢献をご提案しております。環境目標においてもFSC®認証製品の拡販目標を設定して取り組みを推進しております。

FSC®認証は、適切に管理された森林やその森林から切り出された木材の適切な加工・流通を証明する国際的な認証制度です。FSC®にて、全ての加工製造・流通経路において材料がきちんと管理されていることを審査・承認された製品にのみ、独自のロゴマーク（トレードマーク）を適用することができます。

認証番号	SGSHK-COC-350217
認証対象製品	段ボール、紙器製品
FSC認証種別	FSC/COC認証
認証取得日	2018年2月27日

FSC®認証ロゴマークを包装資材に表示することにより、環境に配慮した包装材を使用していることを国内、海外問わず消費者に広く知ってもらうことができます。

当社におけるFSC®森林認証紙の採用実績は、3年で倍増しています。今後ますます採用実績は増加していくものと予想されます。各社の環境意識が高まってきていると思われ当社としてもさらなるPRを促進することで、持続可能な原料調達に貢献してまいります。

今期より新たな取り組みがスタート「サーキュラーエコノミーへの貢献」

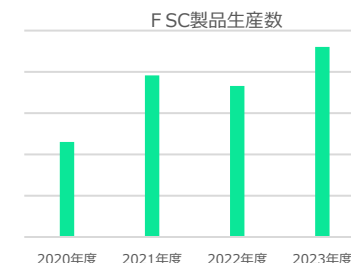
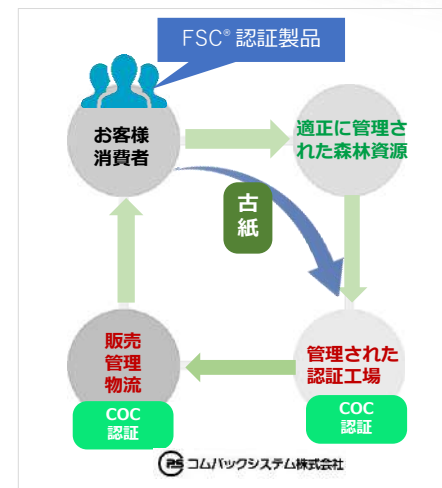
環境への貢献度大！

ダンボールのみでなく、発泡PE緩衝材サンテックフォーム®のロスもPE袋へと生まれ変わる！

同じく主要製造品目である高機能発泡緩衝材サンテックフォームについては、生産工程において端材・ロスは必ず発生してしまいます。設計段階からそれらを最小にする設計をすすめ、また生産工程においても端材の最小化に取り組んできております。

当社では、以前より減容機を導入しておりましたが、今期末から開始した取り組みの大きな成果として、発泡ロス材をチップ状に融解・圧縮した新たな協力会社へ引き取りをしていただくフローへと変えました。その協力会社のもとで、当社から排出・圧縮したチップをリサイクル100%の再生ペレットとして形を変え、ポリエチレン製の袋の製作を開始しております。

これまで一部、産業廃棄物として取り扱っていたものを、今年度よりロス材を再生原料として活用し協力会社様にて新たなポリエチレン製袋を生産します。この度の協力会社様との連携により完全なリサイクルフローが確立できたこととなります。



2023年度実績は2020年度比で倍増



環境面に対する外部評価

これまで環境保全への様々な取り組みを行ってきたことに対して外部機関から評価していただき数々の受賞をさせていただいております

環境配慮型製品の開発に対して

環境目標にも設定しておりますが、本来業務への取り組みとリンクさせる活動の一つとして「環境配慮型製品の設計・開発の取り組み」を推進しています。限りある資源を大切にするために省資源、軽量化、共通化、リサイクルにつなげる設計など様々な観点からお客様に環境貢献につながるご提案を行っております。その結果、様々な設計が評価され国内のみならず海外の包装コンテストにも受賞をし当社の強みとして大きな成果につながっています。

今年度「2023日本パッケージングコンテスト」において、【工業包装部門賞】を受賞

2023年9月、公益社団法人日本包装技術協会(JPI)主催の「2023日本パッケージングコンテスト」において、【工業包装部門賞】を受賞いたしました。このコンテストは時代と社会の要請に対応した、生活文化に優れたパッケージ及びその技術の開発普及に資することを目的とし、日本パッケージ技術の最高水準を決定するもので、今年で45回を数える、わが国で歴史と権威ある包装コンテストとなります。

今回の受賞作品は、株式会社ミマキエンジニアリング様との共同出品作品「サステナビリティ対応！紙製インクカートリッジ」となります。従来は、ポリプロピレン樹脂で成形したカートリッジを採用していましたが、このたび機能はそのままカートリッジ素材を現行のプラスチックから紙（段ボール）に置き換えることで、カートリッジ1本あたりのプラスチック使用量を削減。紙製カートリッジへの移行を開始する容量440mlのSS21インクではプラスチック使用量削減率68%を達成いたしました。これにより、ポリプロピレン樹脂使用量を年間29.2t削減することができ、年間約38tの二酸化炭素の排出量削減にも寄与し脱炭素社会の実現に大きく貢献しております。



プラー紙へ

昨年までの環境配慮型製品の受賞歴

受賞年度	2013	2014	2015	2017	2018	2020
受賞作品						
日本パッケージングコンテスト	2013日本パッケージングコンテスト「輸送包装部門賞」	2014日本パッケージングコンテスト「ジャパンスター賞」	2015日本パッケージングコンテスト「工業包装部門賞」	2017日本パッケージングコンテスト「工業包装部賞」	2018日本パッケージングコンテスト「輸送包装部門賞」	2020日本パッケージングコンテスト「輸送包装部門賞」
アジアスター賞	アジアスター2013	アジアスター2014	アジアスター2015		アジアスター2018	アジアスター2020
ワールドスター賞				2018ワールドスター賞		2021ワールドスター賞
評価内容/特徴	・オール紙化 ・作業性向上 ・コストダウン効果 ・梱包材の共通化	・材料使用量の削減 ・容積縮小による保管・輸送効率化 ・コストダウン効果	・One way方式からReturnable方式へ ・廃棄物削減 ・作業性向上	・材料使用量削減 ・作業性向上 ・コストダウン効果	・廃棄物削減 ・付加価値付与 ・コストダウン効果	・梱包材の共通化 ・材料使用量の削減 ・輸送・保管スペースの削減



* 日本パッケージングコンテスト：
我が国最高峰のパッケージングコンテスト



* Asia star:
アジア地区のパッケージングコンテスト



* ワールドスター：
世界最高峰のパッケージングコンテスト

環境面に対する外部評価（つづき）

環境活動への取り組みや環境レポートに対して

エコアクション21は毎期の環境レポートの作成と開示が求められています。当社はレポートを単に作成するのみでなく、お取引先様や近隣の皆様へ当社の取り組みを正確に伝えるために積極的な情報開示（コミュニケーション活動）を行っております。誰でもわかりやすく伝わりやすいように心がけレポート作成にあたっております。それらの活動と環境保全につながる様々な取り組みに対してこれまで様々な外部評価をいただいております。

外部サイトはこちら↓



長野県SDGs推進企業情報サイトに当社が事例紹介の1社として紹介されています。エコアクション21と関係させたSDGsの取り組みが紹介がされています。

外部サイトはこちら↓



エコアクション21 長野地域事務局である長野県産業環境保全協会のHP内「事業者紹介」において当社を紹介していただいております。

外部サイトはこちら↓



一般財団法人 持続性推進機構 (IPSuS)/環境省発行の「エコアクション21のすすめ『未来につながる』～EA21企業のトップに聞く～」に当社が紹介されています

2018年2月 第21回環境コミュニケーション大賞「優良賞」

2019年2月 第22回環境コミュニケーション大賞「優秀賞」

2020年2月 第23回環境コミュニケーション大賞「優良賞」

2020年10月 信州エコ大賞 企業賞受賞

2021年1月 「うえだ ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」特別賞受賞 ～ダンボールベッド・間仕切～

2021年3月 環境人づくり企業大賞2020 優秀賞受賞

2021年10月 「うえだ ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」SDGs部門 特別賞受賞 ～ダンボール製什器開発～

2022年1月 エコアクション21 オブザイヤー2021
環境レポート部門 金賞受賞（環境大臣賞）

2023年2月 エコアクション21 オブザイヤー2022
環境レポート部門 銀賞受賞

2023年11月 「うえだ ひと・もの興しの紡ぎ手表彰」名工・匠部門大賞受賞
～強化ダンボール製「ナッツロール」～

2024 2024年2月 エコアクション21 オブザイヤー2023
環境レポート部門 優良賞受賞



産学連携商品 発達障害のある子供達向感覚遊具

強化ダンボール製バランス感覚遊具「ナッツロール」

リハビリテーション工学に精通した
大学教授が考案
産学連携による共同開発商品



長野県上田市にある公立大学法人長野大学の社会福祉学部長の繁成剛教授が構想・デザインを練り、弊社で図面データ化、保有設備を活用し加工を行なった産学連携商品となります。

主に海外輸送等で使用している、環境に優しい素材である強化ダンボール（ハイプルエース）の特性を活用し、心身の発達に障害のある児童向けの遊具を商品化いたしました。昨年のレポート内でも開発時の紹介をいたしましたが今年度より本格的に販売を開始しました。

当社が連携をさせていただいた繁成教授は、リハビリテーション工学、生活支援技術、工業デザインを専門とされ、発達障害や怪我をしてうまく身体を動かせない人々（障害者）が暮らしやすくなるような器具を長年にわたり開発されてきました。教授の持つこれまでのノウハウと当社のノウハウを融合させ、このたびの商品販売となりました。

本商品は自分で組み立てることができ、障害のある子供たちがロックングチェア（揺り椅子）のように揺らして遊ぶことができます。商品名はピーナッツなどのナッツ類の形を連想させる形をしていることに由来しています。

強化ダンボールの優位性（①軽くて非常に強い強度②優れた加工性③接着剤不要で自分で組み立てること・分解が可能④使用後は100%リサイクル可能な環境に優しい素材）を利用して、新たな可能性への挑戦として取り組んできました。

地元大学との産学連携商品となり地域の活性化にも貢献できること、また当社にとっても初めての福祉用具関連商品として障害のある方のお役に立てることができれば当社の理念である「社会貢献」「地域貢献」にも通じるものでもあります。



上田市ふるさと納税返礼品として登録されています



上田市の企業と大学が連携して地域の活性化に取り組んでいるということで長野県上田市ふるさと納税の返礼品としても登録されています。



子どもたちが遊んでいる様子



公立大学法人長野大学
社会福祉学部長
繁成剛教授



当社で加工したパーツを、現地で組み立てて仕上げていきます。避難所の希望者と学生が協力しながら部品を組み立て、最後に補強と装飾を兼ねて5色のカラー布テープで仕上げるワークショップを大学生たちが実施しました。



避難所の様子



環境に優しい商品開発/環境問題やSDGsについての勉強会等で日頃連携させていただいている長野大学様よりの依頼で、正月に発生した能登半島地震の被災地支援活動に協力させていただきました。

被災者の方々が求めている整理棚と机を強化ダンボール（ハイプルエース）を利用して当社で製作し無償提供させていただきました。先生と生徒さんがそれらを被災地に持参し、被災された方たちと触れ合いながらワークショップ等を開催し支援活動を行いました。まだまだ多くの課題があり復興には時間がかかりそうですが、当社理念の一つである『社会貢献』への取り組みとして今後もお役に立てることがあるならば引き続き積極的に取り組んでまいります。

地元大学と連携し能登半島地震の被災地支援活動にダンボール製品で協力



当社は、徹底的に地域に密着しこれまで74年にわたりダンボール製品を中心としてパッケージング事業を展開しております。この地域に育てられた企業として今後も地域の皆様のご理解とご協力、また地域発展がなくては当社の発展ありません。そのために、ここ近年はイベント等で当社の取り組んでいる取り組み紹介や環境やSDGsに関する学生との勉強会・各種環境セミナー、行政機関への協力等へ積極的な協力をすすめ地域の皆様とのコミュニケーション活動に取り組んでいます。

県立上田高校フィールドワーク事業への協力（3年連続）



2023年9月、県立上田高校の1年生とSDGsや環境に関するフィールドワーク授業を当社にて行いました。本年度で3年連続の開催となりました。

事前に生徒さん達に当社事業と環境・SDGsに関する課題を与え、生徒さん達各グループがその課題解決策をまとめ、発表しその後当社からの講評と議論をおこなうというものでした。6月より課題準備をはじめ、9月の実施まで必要な連携を取りながらすすめてまいりました。

当日は、高校生からの様々な視点での考え・意見を伺うことができ、当社にとってもとても貴重な時間を過ごすことができました。

大人の固定観念・発想とは異なり自分なりに考案した商品発表など多くの素晴らしい意見を聞くことができ当社にとっても有意義な時間となりました。工場視察も行い「地域でこんな会社があったんだ」と知っていただくいい機会にもなりました。

環境対策やSDGs達成に向けて、自分たちの将来に直接かわかることであり、それぞれが自分のより良い未来に向けた課題になったと思います。来年度も同様の取り組みを進めるための計画を高校と連携を取りながら進めております。

・本事業（フィールドワーク）の目的

（1）長野県、特に上田市近隣の企業・研究機関と連携し、地域でのフィールドワークを通して、SDGsに関連した課題の解決方法を考え、社会に発信していく力を養う。【協働力+発信力】

（2）連携企業・研究機関の最先端の学問や技術に触れることを通じて、自らのキャリアプランの形成、及び、秋以降本格化する課題研究の基盤構築の機会とする。【進路選択+探究心】

ー昨年度の様子ー

今年度同様、工場見学も含め実際に製造している工程も見てもらいました。B to Bビジネスがメインであるため、当社のことを地域で知っていただくいい機会にもなりました。



2023年10月から約1か月間、上田市の多目的博物館にて「宇宙」「環境」について子供たちが楽しく遊びながら学べるイベントを開催いたしました。当社は宇宙というテーマに関連させたダンボール製の遊具、迷路、ワークショップ等へ向けて数か月前より企画を検討し準備をすすめてきました。

楽しく遊びながら”宇宙“と”環境“について学ぶ 地域の子供たち向けイベントへ全面協力！

環境に優しいダンボールを活用しリサイクルの重要性や可能性をPRするとともに子供たちが宇宙というものに興味を持てるような商品提供をおこないました。約1万人の方が入場され大盛況となり、来場者の方々の入場者アンケートも大変好評でした。



ダンボールを活用したワークショップ



“包装”という分野で、地域の子どもたちに貢献できることは当社の理念とも相通じるものがあり、当社にとってもいい経験となりました。引き続きチャンスがあれば地域の子どもたちのために積極的な活動をすすめ地域貢献に取り組んでまいります。



令和5年度上田市防災訓練が実施されました（災害時用ダンボールベッドを提供、住民の方に実際に体験してもらいました）

2023年9月2日（土）、上田市武石総合グラウンド・上田市武石体育館において令和5年度上田市防災訓練が実施されました。今回は1923年に発生した関東大震災から100年の節目にあたります。その発生日9月1日が「防災の日」と定められ近代日本における災害対策の出発点となりました。

災害等により万が一、当社が位置する長野県上田市地域が被災した際には、当社は「ダンボールベッド/間仕切り」をいち早く提供し地域の方々の避難所生活の質の向上に貢献してまいります。この度の防災訓練においては、ダンボールベッドを展示し地域の皆様へ作り方や使用時の説明をさせていただき実際にダンボールベッドを体験していただきました。

訓練を通じ地域行政の方々とも連携強化を行い防災力の向上に努め、当社理念でもある「地域貢献」に取り組んでまいります。



これまでも長野県総合防災訓練や地元自治会の防災訓練に参加し地域の人々と交流しながらダンボールベッドの組み立て方、使い方を指導しています。



A E D訓練、災害支援車も出動し災害が起きたと仮定し様々な訓練を行いました

TOPICS

当社の理念でもある「地域貢献」「地域との共生」に通じる重要な取り組み

当社は現在当社が位置する長野県上田市、近隣の東御市及び青木村と「災害時における物資供給の協力に関する協定」を結んでおり、地域で災害が発生した際には速やかにダンボールベッドおよびパーティションを供給しエコノミクス症候群対策、避難所の質の向上に貢献してまいります。



ダンボールの優位性を活用

- ・「軽さ」と「強さ」
- ・1度に大量生産が可能
- ・使用後はリサイクル100%なエコ資材

そのほかにもこれまで様々なコミュニケーション活動を行ってきました



2016年 地元デザイン科の高校生との実習、講演（環境に優しいダンボールを使った商品開発）

2019年 地域キッズサイエンスイベントに環境に優しい段ボール商品で参加、リサイクルの重要性PR

2020年1月 地元大学での環境経営についての講義

2020年5月 「うえだ環境市民会議」での講演

2021年4月 デザイン学校とのSDGsテーマコラボ
学生がデザインし当社で構造設計した紙製什器など共同開発

2021年12月 地元大学の学生さんとグリーンネットワーキングに関する勉強会＆意見交換会を実施

グリーンネットワーキングとは、地球環境の保全・向上を前提とする、経済成長（＝本来の意味での、持続的発展）実現のための、個々の市民、企業、団体の意識と毎日の生産・生活上の個々の工夫、実践を地域社会、ひいては国際社会の中で、如何に協力的ネットワークを組んで、有機的に繋がりながら、効率的、着実に推進していくかのシステム創りの試案を考察しています

2022年11月 （一社）長野県産業環境保全協会（EA21地域事務局長 野産環協）主催エコアクション21セミナーでの事例紹介、講演

2023年2月 地元の自然エネルギー上小ネット情報交流会での講演
自社のこれまでの環境保全・SDGsへの取り組みや今後の課題等について地元企業の1社として事例・取り組み発表

2024年1月 地元大学のダンボールを素材にした福祉関連商品開発にかかわる卒業研究発表会への参加

2024



6 安全な水とトイレ
を世界中に

11 住み続けられる
まちづくりを

対象物質 (旧 PRTR管理物質)	塩化第二鉄
使用状況	排水処理設備 薬品に微量に含む

16 Environmental Management Report 2023

■ 自社単独の活動のみでなく環境コミュニケーション活動を通じてさらなる環境保全への貢献、地域発展を目指します

持続可能な社会への貢献と企業発展を目的とした新環境目標の初年度が終了しました。結果として管理項目26目標のうち、達成は16項目、未達成が9項目、(現状把握項目1)となりました。従来より継続している「環境負荷削減に貢献する取り組み」に加え、「本来実務業務に関連させた付加価値拡大にもつながる新たな取り組み」目標の設定を行っての初年度でありましたが、成果を出すことができた取り組みの一方で、課題(現時点での当社の弱点)も浮き彫りとなり次年度への活動の課題(ヒント)もできました。全社員と今期の取組結果を共有し来期へ向けてより改善できる対策を検討してまいります。

従来よりさらにより厳しい目標設定を行った、最もCO2排出量削減に影響を及ぼす本社工場と塩田工場の電力削減取組(本社は対生産量比、塩田は使用量)においては、下期より販売(生産)が減少に転じたこと、また塩田工場ではここ数年の設備更新(増強)を行ってきたことが要因で悪化(未達成)となりましたが、本目標は来期へ引き継ぐ最重要課題としてあらためて取り組みの強化を指示してまいります。地球温暖化防止(=持続可能な社会づくり)に貢献するCO2排出量削減は長期目標の「Vision2030」の目標項目でもあるため最重要課題として取り組んでまいります。反面、これまでの課題のひとつであった産業廃棄物排出量削減目標においては、今期において大きな成果を出すことに成功いたしました。これまでなかなか削減がすすまなかった目標であり紆余曲折しておりましたが分別管理の徹底、排出源の見極め、再利用化への取り組みを進めたことで、これまでで最小の排出量となりました。特にサーキュラーエコノミーに寄与できる取り組みとなった、緩衝材サンテックフォーム端材を再生PE袋原料として国内協力会社で利用する取り組みは持続可能性の実現に向けて大きな取り組み成果の一つとなりました。これは当社のみでは不可能な取り組みで他社との協業によるものであり環境コミュニケーション活動における大きな成果となりました。

またSDGsに関する目標(Vision2030)にも貢献する、時間外労働時間を削減(生産性を上げ時間当たり効率を高め時間外労働を減らすことで環境負荷も低減させていく)目標は3割近く前年度より削減させたことで大きく環境負荷も削減でき(販売は増収)、全社での生産性の向上が見て取れます。さらなるムダ・ムリを排除していきながら社員皆の働きやすい職場づくりとともに、環境負荷削減に取り組んでいくことを社員と共有してまいります。

より実務と直結した目標設定のひとつとして、破損品の削減(収益向上につなげるとともに環境負荷を削減)にも取り組んでいますが、新目標は発生件数と金額を工場管理発生なのか事務所管理発生なのかを責任の明確化するために区分けして目標設定し活動を開始した結果、目標達成となりそれぞれが緊張感をもち取り組んでくれたことの成果も出てきており今後の更なる成果に期待できる目標となっています。

毎月の発生事案の分析とPDCAを行いながら各自が細心の注意を払いながら行ってきた効果が特に金額面での目標で出すことができたことは付加価値拡大にもつながることとなり大きな成果でありました。

しかし一方では活動を進めていく中で課題もいくつか見えてきております。主な課題として

- ・電力削減に加え、排水量の削減が思うようにここ数年すすんでいない
- ・在庫回転率目標が、下期より販売減少したことで悪化(販売減少にともない在庫減少させる取り組みが進まなかった)
- ・環境/SDGsに配慮した設計提案件数が停滞義気(提案の弱体化)
- ・サンテックフォームのロス・端材の増加傾向(改善活動の停滞)

これらの反省すべき課題に対して来期以降、課題として再度取り組むこととなりますが各部署での活動強化に期待するところであります。

また「第73環境経営レポート」が「エコアクション21オブザイヤー2023」において「優良賞」を受賞いたしました。昨年度の銀賞、一昨年度の金賞(環境大臣賞)に続いて3年連続で入賞できたことは、これまで取り組んできた社員皆の大きな喜び・今後の励み・やりがいにつながるものとなる大きな成果でした。エコアクション21スタート時は単なる環境負荷の削減目標のみでしたが、当社の理念に基づく目標(地域を守り豊かな自然環境を引き継ぎ地域の進歩発展に貢献していくことが自社の持続可能性にもつながるんだという想い)を取り入れながら経営課題にも展開しはじめ、さらに社会の一員として広い視野からのSDGsへの貢献もリンクさせる取り組みに進歩発展してきました。そのような社員皆の活動取り組みを評価していただいたことはとても嬉しいことでした。環境面を中心とした社会と地域への貢献、そしてその取り組みの中から生み出す自社の付加価値の向上=自社の発展につなげていけるように今後も取り組んでまいります。

■ 理念達成に向けて更なる取り組みへ

認証取得してから16年余りが経過してきた中で、持続可能な社会づくりに向けて事業活動で排出する環境負荷を下げ、そして実務に直結(付加価値の拡大につなげる)する活動を進めてきましたが、ここ近年全員の活動の成果が目に見えて出てきていることを実感しています。「環境活動」というものを理念の一部ととらえることで当社の特徴・強みの一つとして位置づけ、包装材以外の分野においても環境に優しい素材を活用して人々に喜んでもらえる新たな商品開発(ナッツロール等)も自社の周りの関係機関との連携の中で生み出すことができております。

他者と連携し開発した環境配慮商品がふるさと納税返礼品として登録され地域活性化に貢献できたこと、そして被災地支援活動を行ったことも自社単独では不可能な取り組みでした。コミュニケーションの重要性を改めて認識する取り組みでした。

当社にとって社会貢献活動のひとつとして大きなやりがいにもつながっております。

私は環境活動は自社単独での活動だけでは削減、取り組み成果にも一定の限界があると考えており、取引先をはじめ周りの関係機関・関係者とのつながりからお互いの意見交換やアドバイス・協業を通じその中から新たなヒントを得てこれまで以上の更なる成果につなげていくことが重要ではないかと考えています。今期はそれが改めて大きく認識できる年度となりました。引き続き積極的な環境コミュニケーション活動を通じて来期以降の更なる環境貢献/社会貢献のより大きな活動成果を目指してまいります。

エコアクション21は単なるエコ活動ではなく、理念達成の重要な活動になってきていることを社員と共有しつつ、エコアクション21の取り組みを今後も推進してまいります。引き続きの皆さまからのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

2024年6月

代表取締役社長 鈴木由彦



やさしく”包む“